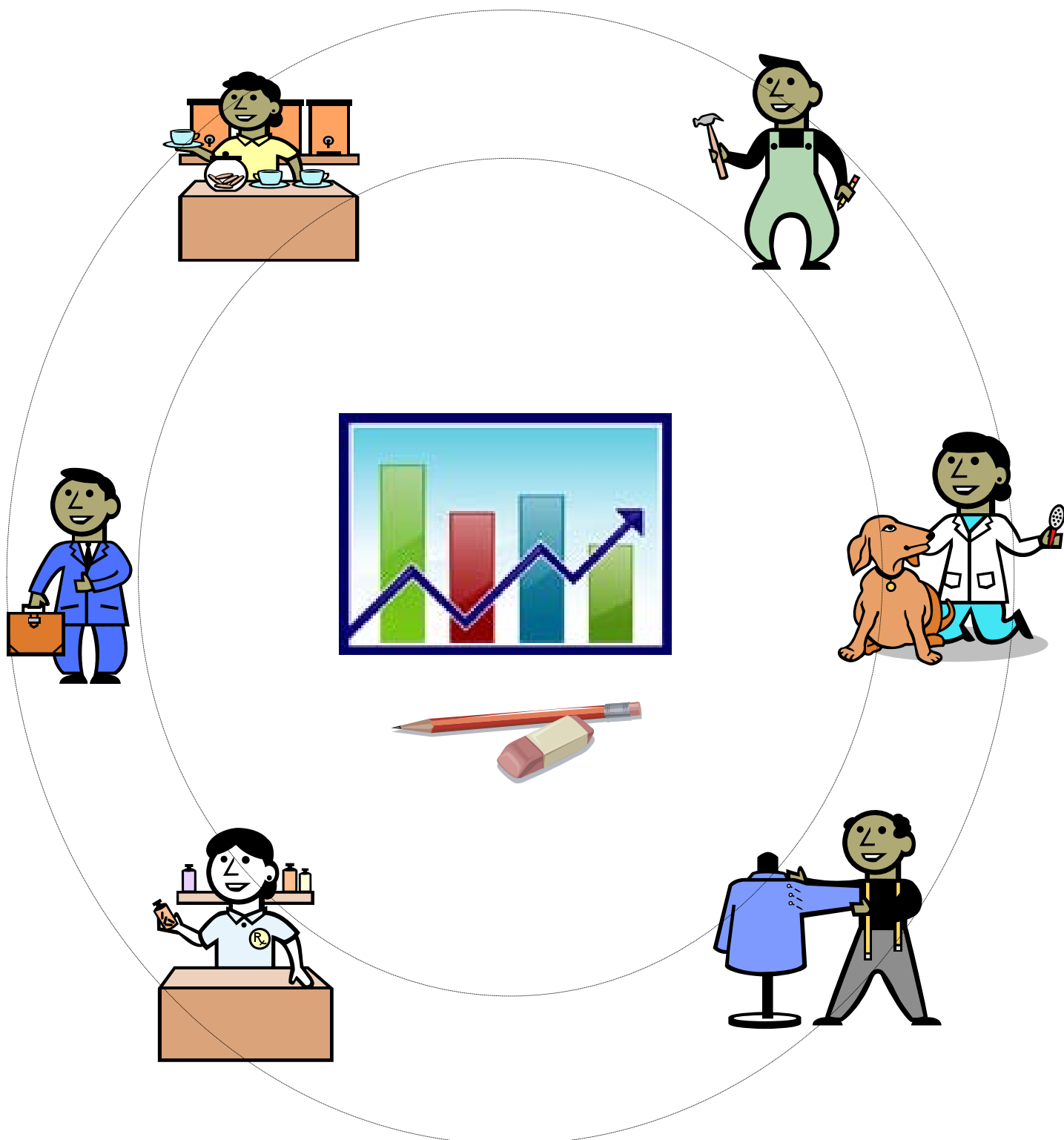


# 資料

# 『働くことと学ぶことについての調査』



## ～調査ご協力のお願い～

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

労働政策研究・研修機構は、厚生労働省所管の独立行政法人です。

当機構では、このたび、厚生労働省職業能力開発局からの要請をうけて、日本人の全般的な働き方と仕事のためのスキルや知識を高めるための取り組みの実態を把握するために、「働くことと学ぶことについての調査」を実施することとしました。この調査は、能力開発を十分に行える社会環境の在り方についての検討資料とするものです。

調査の結果は、当機構内に設置された「非正社員の活用と人材育成に関する研究会」において分析し、その結果をもとに政策提言を行ってまいります。

日本全体の傾向をつかむため、無作為に選ばせていただいた結果、あなた様に調査へのご回答をお願いさせていただくことになりました。

ご回答頂きました内容はすべて統計的にコンピューターで処理し、個人名が他に漏れることはありません。大変お忙しい中誠に恐縮ですが、調査にご協力くださいますようお願い申し上げます。また、このアンケート調査とともに、別途、インタビュー調査も行わせていただきますが、あわせてご協力をお願い申し上げます。

なお、調査の実施にあたっては、社団法人中央調査社に調査票の送付・回収作業を委託しておりますことを申し添えます。

敬具

平成 20 年 10 月

独立行政法人 労働政策研究・研修機構  
理事長 稲上 毅

### <非正社員の活用と人材育成に関する研究会>

佐藤 博樹	東京大学社会科学研究所 教授（座長）
香川 めい	立教大学社会学部 助教
黒澤 昌子	政策研究大学院大学 教授
小杉 礼子	労働政策研究・研修機構 統括研究員
佐野 嘉秀	法政大学経営学部 准教授
原 ひろみ	労働政策研究・研修機構 研究員
山本 雄三	労働政策研究・研修機構 臨時研究協力員

■ 調査票の内容についてのお問い合わせ先

独立行政法人 労働政策研究・研修機構  
人材育成研究部門

■ 調査票の回収については、下記の調査機関まで  
お問い合わせください。

社団法人 中央調査社 管理部



### <ご記入上のお願い>

- 本アンケートは、回答をお願いしたご本人がお答えいただきますようお願いいたします。
- 該当する全ての項目にお答えください。また、回答は、あてはまる選択肢の番号に○をつけるか、( ) や  の中に具体的にご記入ください。
- 本アンケート調査の回収および統計処理は、社団法人中央調査社に委託しております。ご記入いただいたアンケート、後日、調査員が回収に伺います。

\* 当機構は厚生労働省所管の独立行政法人です。国内外の労働問題や労働政策について総合的な調査研究等を行うことにより、労働政策の立案や労働政策の効果的で効率的な推進に寄与することを目的とした組織です。詳細については、インターネットの当機構の HP (<http://www.jil.go.jp>) または同封のパフレットをご覧ください。

**I. はじめに、現在のあなたの働き方についておうかがいします。**

※ 現在とは、2008年9月のことです。

※ 事業を営んでいる方や家業を手伝っている方は、勤務先の会社を事業あるいは家業に置き換えて、以下の質問にお答えください。

問1 現在の勤務先の会社で、今、あなたはどのような働き方をしていますか。(○は1つ)

※ 派遣会社に正社員として雇用されている派遣社員の方も、「10 派遣社員」を選択してください。

1	経営者・役員
2	自営業主・自由業者・内職
3	家族従業員
4	正社員・正職員（役職なし）
5	正社員・正職員（職長、班長、組長）
6	正社員・正職員（係長、係長相当職）
7	正社員・正職員（課長、課長相当職）
8	正社員・正職員（部長、部長相当職）
9	パート・アルバイト・契約・嘱託・臨時
10	派遣社員
11	その他

勤務先の会社での呼び名（呼称）を具体的にお答えください。  
例) 社員、社長、キャスト、パートナー、スタッフなど

勤務先での呼び名を記入後、  
付問1-1へお進みください

付問1-1 【問1で9~11を選んだ方にお尋ねします。1~8を選んだ方は次ページ問2へ】

あなたが、もし希望したとすると、現在の勤務先で正社員に採用・登用される可能性は、どれくらいだと思いますか。(○は1つ)

- |   |            |   |            |
|---|------------|---|------------|
| 1 | 間違いなく登用される | 4 | ほぼ見込みはない   |
| 2 | ほぼ登用される    | 5 | まったく見込みはない |
| 3 | 半々         | 6 | わからない      |

付問1-2 【問1で9~11を選んだ方におたずねします】

現在の勤務先では、あなたは○カ月など期間を決めての雇用（＝雇用契約期間の定めがある契約）ですか。雇用契約期間の定めがある場合は、その期間をご記入ください。(○は1つ)

※ 派遣社員として働いている方は、派遣元での雇用契約期間をご記入ください。

- |   |  |
|---|--|
| 1 | 雇用契約期間の定めがある → 雇用契約期間は <input type="text"/> 年 <input type="text"/> カ月 → 付問1-3へ |
| 2 | 雇用期間の定めがない（定年までの雇用を含む）   |
| 3 | わからない  |
- 問2へ

**付問 1 - 3 【付問 1 - 2 で 1 を選んだ方におたずねします】**

あなたの雇用契約は、更新される可能性がどの程度ありますか。(○は1つ)

- |   |              |   |                    |
|---|--------------|---|--------------------|
| 1 | ほぼ間違いなく更新される | 4 | 更新される可能性が低い        |
| 2 | 更新される可能性が高い  | 5 | 更新されない             |
| 3 | 半々           | 6 | 更新されるかどうかまったくわからない |

**【全員の方に】**

問 2 あなたが現在の勤務先で働き始めたのはいつからですか。また、それは何歳頃でしたか。

※ 派遣社員として働いている方は、現在の派遣先で働き始めたときをお答えください。

※ 現在の勤務先で、途中で働き方（正社員、アルバイト、自営業など）を変えた人は、今の働き方を始めたときではなく、現在の勤務先で働き始めたときをお答えください。

西暦     年   歳頃から

問 3 あなたは、現在の勤務先で、今の働き方となる直前の働き方は何でしたか。

(○は1つ)

- |   |                                  |
|---|----------------------------------|
| 1 | 学校卒業後、勤務先も働き方もずっと同じである           |
| 2 | 現在と同じ勤務先で、パート・契約社員など非正社員として働いていた |
| 3 | 現在と同じ勤務先で、正社員として働いていた            |
| 4 | 他の勤務先で、パート・契約社員など非正社員として働いていた    |
| 5 | 他の勤務先で、正社員として働いていた               |
| 6 | 自営業だった                           |
| 7 | 派遣社員だった                          |
| 8 | この働き方となる前は働いていなかった               |
| 9 | いずれにもあてはまらない                     |

問 4 あなたが現在の勤務先で今の働き方を選んだ理由は何ですか。(○はいくつでも)

- |   |                    |    |                  |
|---|--------------------|----|------------------|
| 1 | やりたい仕事ができるから       | 10 | 組織にしばられたくないから    |
| 2 | 資格を活かしたいから         | 11 | 勤務時間や労働日数が短いから   |
| 3 | 能力を発揮したいから         | 12 | 自分の都合のよい時間に働けるから |
| 4 | 責任の少ない仕事だから        | 13 | 通勤時間が短いから        |
| 5 | 収入が安定しているから        | 14 | 年収を一定以内におさえたいから  |
| 6 | 収入が多いから            | 15 | 家計の補助、学費等を得たいから  |
| 7 | 雇用が安定しているから        | 16 | 仕事と生活を両立しやすいから   |
| 8 | 家業を継ぐため            | 17 | 時間に余裕ができたから      |
| 9 | 正社員として働ける会社がなかったから | 18 | その他(具体的に: _____) |

問 5 現在、あなたの勤務先の会社全体は、主にどのような事業をしていますか。(○は1つ)

※ 以下で特に断りのない限り、派遣社員として働いている方は、現在の派遣先についてお答えください。

- |   |                   |    |                    |
|---|-------------------|----|--------------------|
| 1 | 農林漁業、鉱業、採石業、砂利採取業 | 9  | 不動産業、物品賃貸業         |
| 2 | 建設業               | 10 | 学術研究、専門・技術サービス業    |
| 3 | 製造業               | 11 | 宿泊業、飲食サービス業        |
| 4 | 電気・ガス・熱供給・水道業     | 12 | 生活関連サービス業、娯楽業      |
| 5 | 情報通信業             | 13 | 教育、学習支援業           |
| 6 | 運輸業、郵便業           | 14 | 医療、福祉              |
| 7 | 卸売業、小売業           | 15 | その他のサービス業(10~14以外) |
| 8 | 金融業、保険業           | 16 | その他                |

事業の内容を具体的にお答えください。

例) 学習塾、板金工場、自動車販売、生花販売など

問 6 あなたの現在の勤務先の会社全体で働いている人は、何人くらいですか。あなたご自身、家族従業者、パートや契約社員なども含めてお答えください。(○は1つ)

- |   |          |   |          |
|---|----------|---|----------|
| 1 | 4人以下     | 6 | 300~999人 |
| 2 | 5~9人     | 7 | 1000人以上  |
| 3 | 10~29人   | 8 | 官公庁(公務員) |
| 4 | 30~99人   | 9 | わからない    |
| 5 | 100~299人 |   |          |

**問 7 現在の勤務先で、今、あなたはどのような仕事をしていますか。(○は1つ)**

- |    |  |
|----|--|
| 1  | 専門・技術的職業（医師、看護師、弁護士、教師、技術者、デザイナーなど）                    |
| 2  | 管理的職業（企業・官公庁における課長職以上、経営者など）                           |
| 3  | 事務的職業（企業・官公庁における一般事務、経理、内勤の営業など）                       |
| 4  | 販売的職業（店主、店員、不動産売買、保険外交、外勤のセールスなど）                      |
| 5  | サービスの職業（理・美容師、料理人、ウエイトレス、ホームヘルパーなど）                    |
| 6  | 技能工・生産工程に関わる職業（製品製造・組み立て、自動車整備、建設作業員、大工、電気工事、農水産物加工など） |
| 7  | 運輸・通信的職業（トラック・タクシー運転手、船員、郵便配達、通信士など）                   |
| 8  | 保安的職業（警察官、消防官、自衛官、警備員など）                               |
| 9  | 農・林・漁業に関わる職業（農作物生産、家畜飼養、森林培養・伐採、水産物養殖・漁獲など）            |
| 10 | その他  |

お仕事の内容を具体的にお答えください。

例) 美容師、レジ係、経理など

**問 8 あなたは、現在、労働組合に入っていますか。(○は1つ)**

- |   |                  |
|---|------------------|
| 1 | 勤務先の労働組合に入っている   |
| 2 | 勤務先以外の労働組合に入っている |
| 3 | 入っていない           |

問 9 今あなたが働いている職場について、あてはまるものはありますか。

(○はいくつでも)

1	残業している人が多い	11	新人の仕事や生活についての相談相手が決められている
2	人員が常に不足している	12	将来の仕事について相談できる機会がある
3	締め切りや納期がきつい職場である	13	研修会などの仕事の知識や技術を高める機会が多い
4	辞める人が多い	14	経験する仕事の順番がはっきりしている
5	お互いに助け合う雰囲気がある	15	いずれもあてはまらない
6	一人ひとりが独立して行う仕事が多い		
7	職場の人と協力して行う仕事が多い		
8	先輩が後輩を教える雰囲気がある		
9	本人の希望で異動できる仕組みがある		
10	パートや契約社員などから正社員になれる制度がある		

問 10 今のあなたの仕事に、新人を配属した場合、どのくらいの期間で一通り仕事ができるようになると思いますか。(○は1つ)

1	1 カ月以下	4	1 年程度	7	6 ～ 9 年程度
2	2 ～ 3 カ月程度	5	2 ～ 3 年程度	8	10 年以上
3	6 カ月程度	6	4 ～ 5 年程度	9	わからない

問 11 あなたの現在の仕事上の能力や知識は、他の勤務先や事業でも役立つと思いますか。

(○は1つ)

1	とても役に立つ	4	まったく役に立たない
2	ある程度役に立つ	5	わからない
3	あまり役に立たない		



問 12 あなたは、現在の仕事について、以下の a～l にどの程度、満足していますか。

(○はそれぞれ1つつ)

	満足	やや満足	どちらとも いえない	やや不満	不満
a 収入の水準	1	2	3	4	5
b 収入の安定性	1	2	3	4	5
c 労働時間	1	2	3	4	5
d 休日・休暇	1	2	3	4	5
e 仕事の量	1	2	3	4	5
f 仕事内容	1	2	3	4	5
g 職場の人間関係	1	2	3	4	5
h 雇用・就業の安定性	1	2	3	4	5
i 仕事に役立つ能力や知識 を身につける機会	1	2	3	4	5
j 能力を発揮する機会	1	2	3	4	5
k 仕事全体	1	2	3	4	5
l 今後のキャリアの見通し	1	2	3	4	5

問 13 もし、現在の勤務先で今の働き方を続けるとしたら、今後3年くらいの間に、あなたの仕事はどうなると思いますか。(○はいくつでも)

1 より責任が重くなる	6 部下の評価や査定を行う立場になる
2 より難しい仕事を担当する	7 いまと変わらない
3 今とは異なる分野の仕事を担当する	8 いずれもあてはまらない
4 担当する仕事の幅が広がる	9 わからない
5 後輩の指導や育成をする機会が増える	

問 14 あなたは、現在の勤務先に、今後どのくらい継続して勤めたいですか。(○は1つ)

1 3カ月未満	5 3年以上5年未満
2 3カ月以上6カ月未満	6 5年以上
3 6カ月以上1年未満	7 勤め続けられるかぎり勤めたい
4 1年以上3年未満	8 特に決めていない

問 15 今後3年くらいの間に、あなたはどのような働き方(正社員、アルバイト、自営業など)をしたいですか。(○は1つ)

- |   |                    |
|---|--------------------|
| 1 | 現在の会社で、今の働き方を続けたい  |
| 2 | 別の会社で、今の働き方を続けたい   |
| 3 | 現在の会社で、他の働き方に変わりたい |
| 4 | 別の会社で、他の働き方に変わりたい  |
| 5 | 独立して事業を始めたい        |
| 6 | 仕事をしばらくやめたい        |
| 7 | 仕事をすっかりやめたい        |
| 8 | その他(具体的に: )        |
| 9 | 特に考えていない           |
- 3, 4 → 付問 15 - 1へ

付問 15 -1 . 【問 15 で 3, 4 と答えた方におたずねします】

あなたはどのような働き方に変わりたいと思いますか。(○は1つ)

- |   |                  |
|---|------------------|
| 1 | 正社員・正職員          |
| 2 | パート・アルバイト・契約社員など |
| 3 | 派遣社員             |
| 4 | その他(具体的に: )      |

**II. ここからは、2007年4月～2008年3月（昨年度1年間）の能力開発の状況について、おうかがいします。**

**【全員の方に】**

問 16 2007年4月～2008年3月（昨年度1年間）に、あなたは働いていましたか。

（○は1つ）

- |   |                           |            |
|---|---------------------------|------------|
| 1 | 継続して働いていた                 | } → 問 17 へ |
| 2 | 働いていたこともあるし、働いていなかったこともある |            |
| 3 | <u>まったく働いていなかった</u>       |            |
- 9 ページ問 20 へ

問 17 2007年4月～2008年3月（昨年度1年間）に、あなたは仕事の能力や知識を高めることにつながる、以下のことを受けたり、したことがありますか。

（○はそれぞれ1つずつ）

①2007年4月～2008年3月（昨年度1年間）の仕事上の能力や知識を高める活動

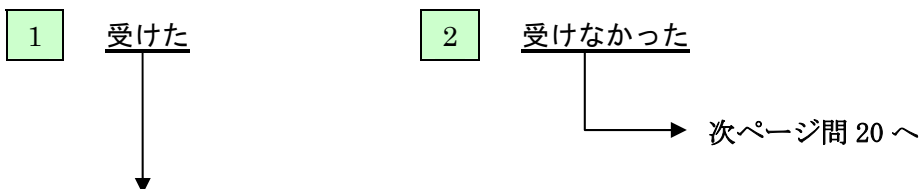
	よくあった	ときどきあった	あまりなかった	まったくなかった	そういう人はいなかった (マニュアルはなかった)
a 上司や同僚から、仕事上の指導やアドバイスを受けること	1	2	3	4	5
b 部下や同僚に、仕事上の指導やアドバイスをすること	1	2	3	4	5
c 上司や同僚の仕事のやり方を見て学ぶこと	1	2	3	4	5
d 本やマニュアルを読み、自分で勉強して仕事の仕方を学ぶこと	1	2	3	4	5
e 今の仕事に役立つ担当外の仕事を経験すること	1	2	3	4	
f ミーティング等を通じて、仕事に役立つ情報を共有すること	1	2	3	4	

②2007年4月～2008年3月（昨年度1年間）の仕事に関する変化

a 仕事の担当範囲	1 幅広くなった	2 変化なし	3 狭くなった	
b 仕事のレベル	1 高くなった	2 変化なし	3 低くなった	
c 仕事上の責任の大きさ	1 大きくなった	2 変化なし	3 小さくなった	
d 部下の人数	1 多くなった	2 変化なし	3 少なくなった	4 部下はいなかった

問 18 2007年4月～2008年3月（昨年度1年間）に、あなたは、勤め先の指示で、「教育訓練」を受けましたか。

※「教育訓練」とは、半日以上、ふだんの仕事から離れて参加する研修や講習会のことです。



問 19 2007年4月～2008年3月（昨年度1年間）に、あなたが受けた教育訓練の受講日数は合計でどのくらいですか。（○は1つ）

- |               |               |
|---------------|---------------|
| 1 半日程度        | 5 2週間以上～1カ月未満 |
| 2 1日程度        | 6 1カ月以上       |
| 3 2日以上～1週間未満  | 7 わからない       |
| 4 1週間以上～2週間未満 |               |

付問 19 - 1 ～ 3は、教育訓練を複数受けた方は、期間がもっとも長かったものについてお答えください。

付問 19 - 1 その教育訓練は、どのようなものでしたか。（○は1つ）

- |                                  |
|----------------------------------|
| 1 そのときの仕事をするために必要最低限なもの          |
| 2 そのときの仕事をよりよく行う上で役立つもの          |
| 3 そのときの仕事だけではなく、やがて担当する仕事にも役立つもの |
| 4 そのときの仕事との関係がはっきりとわからないもの       |
| 5 その他                            |

**付問 19 - 2** あなたが、もし転職したら、その教育訓練で身につけた職業能力や知識は、転職先でどの程度、役に立つと思いますか。(○は1つ)

- |   |           |   |            |
|---|-----------|---|------------|
| 1 | 非常に役に立つ   | 4 | まったく役に立たない |
| 2 | 役に立つ      | 5 | わからない      |
| 3 | あまり役に立たない |   |            |

**付問 19 - 3** あなたは、その教育訓練を熱心に受けましたか。(○は1つ)

- |   |           |   |             |
|---|-----------|---|-------------|
| 1 | 非常に熱心に受けた | 4 | あまり熱心ではなかった |
| 2 | まあ熱心に受けた  | 5 | 仕方なく受けた     |
| 3 | ふつうに受けた   |   |             |

**【全員の方に】**

**問 20** あなたご自身、2007年4月(昨年4月)とくらべて、現在では、以下のことに変化がありましたか。それぞれもっとも当てはまるものを選んでください。(○は1つ)

	上昇	やや上昇	変化なし	やや低下	低下
a 主な仕事の収入	1	2	3	4	5
b 昇進の可能性	1	2	3	4	5
c 自分が希望する仕事につける可能性	1	2	3	4	5
d スキルレベル	1	2	3	4	5
e 仕事遂行能力	1	2	3	4	5

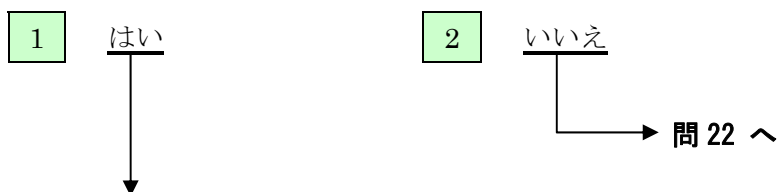
**付問 20 - 1** 【dかeで、1または2と回答した方におたずねします】

スキルレベル、または仕事遂行能力の上昇に、なにが役立ちましたか。(○はいくつでも)

- |    |   |
|----|---|
| 1  | 上司や同僚から、仕事上の指導やアドバイスを受けたこと              |
| 2  | 部下や同僚に、仕事上の指導やアドバイスをしたこと                |
| 3  | 上司や同僚の仕事のやり方を見て学んだこと                    |
| 4  | 本やマニュアルを読み、自分で勉強して仕事の仕方を学んだこと           |
| 5  | 今の仕事に役立つ担当外の仕事を経験したこと                   |
| 6  | ミーティング等を通じて、仕事に役立つ情報を共有したこと             |
| 7  | 担当する仕事の範囲・幅が広がったこと                      |
| 8  | 任される仕事の責任が大きくなったこと                      |
| 9  | 勤務先の指示で研修に参加したこと                        |
| 10 | 就業時間外に会社の指示でなく、自分からすすんで研修に参加するなど、勉強したこと |
| 11 | その他(具体的に: _____)                        |

問 21 2007 年 4 月～2008 年 3 月（昨年度 1 年間）に、あなたは、就業時間外に、勤務先の指示ではなく、自分からすすんで今の仕事やこれからつきたい仕事に関わる勉強（＝自己啓発）をしましたか。

自己啓発の例： 仕事関係の本の購読  
ラジオの英語講座を聴く  
専門学校や社会人大学院への通学  
社内外の自主的な勉強会やセミナーへの参加 など



付問 21 - 1【問 21 で 1 と答えた方におたずねします】

2007 年 4 月～2008 年 3 月（昨年度 1 年間）に行った自己啓発の合計時間数はだいたいのどのくらいでしたか。（○は 1 つ）

- |   |            |   |             |
|---|------------|---|-------------|
| 1 | 8 時間未満     | 4 | 48～100 時間未満 |
| 2 | 8～24 時間未満  | 5 | 100 時間以上    |
| 3 | 24～48 時間未満 | 6 | わからない       |

計算例：

- (1) 毎日、一日 30 分を半年間行った場合（1 カ月 30 日で計算）： 0.5 時間  
×30 日×6 カ月＝90 時間
- (2) 毎週末、半日を半年間行った場合（1 日 8 時間、半日 4 時間、1 カ月 4 週間で計算）： 4 時間×4 週間×6 カ月＝96 時間
- (3) 週に 1 回、30 分のラジオ講座を聴いて勉強するのを 1 年間続ける（1 年間 52 週で計算）： 30 分×52 週＝1560 分＝26 時間

付問 21 - 2【問 21 で 1 と答えた方におたずねします】

2007 年 4 月～2008 年 3 月（昨年度 1 年間）の自己啓発にかかった授業料や教材費・参考書購入費などの費用のうち、あなたご自身で支払った金額は、合計でどの程度でしたか。（○は 1 つ）

- |   |               |   |                |
|---|---------------|---|----------------|
| 1 | 1 万円未満        | 4 | 5 万円以上 10 万円未満 |
| 2 | 1 万円以上 3 万円未満 | 5 | 10 万円以上        |
| 3 | 3 万円以上 5 万円未満 |   |                |

問 22 現在、あなたは自己啓発を行いたいですか。

- |   |     |   |   |
|---|-----|---|---|
| 1 | はい  | → | a) 具体的に、何をしたいですか。また1年間に何時間、おいくらくらいで行いたいですか。 |
| 2 | いいえ |   |   |

ご自由にご記入ください。

例) ラジオ英会話。週1回30分で年間26時間くらい。1万円くらい。など

問 23 あなたが現在、自己啓発を行うとしたら、次のような問題点はありますか。

(○はいくつでも)

- |   |                       |    |                           |
|---|-----------------------|----|---------------------------|
| 1 | 仕事が忙しい                | 6  | どのような能力や知識を身につけたらよいか分からない |
| 2 | 家事・育児・介護など仕事以外のことで忙しい | 7  | 取得すべき資格がわからない             |
| 3 | 費用を負担できない             | 8  | 特に困ったことはない                |
| 4 | どこで学ばよいかかわからない        | 9  | そもそも自己啓発に関心がない            |
| 5 | 信頼のおける教育訓練機関がわからない    | 10 | その他(具体的に: )               |

**III. ここからは、今後の職業やキャリアについてのお考えをおたずねします。**

問 24 あなたは、a~c それぞれのために、仕事の能力や知識を高めたいと思いますか。

(○はそれぞれ1つつ)

	そう思う	ある程度 そう思う	あまり そう思わ ない	まったく そう思わ ない	わからな い	今後、働き方 を変えるつ もりはない
a 今の仕事のために	1	2	3	4	5	
b 将来の仕事のために	1	2	3	4	5	
c 今後、働き方を変えるため	1	2	3	4	5	6

問 25 あなたは勤務先の上司から、あなたに身につけてほしい能力について、どの程度説明を受けていますか。(○は1つ)

- |   |           |   |            |
|---|-----------|---|------------|
| 1 | 十分に受けている  | 4 | まったく受けていない |
| 2 | ある程度受けている | 5 | どちらとも言えない  |
| 3 | あまり受けていない |   |            |

問 26 現在の勤務先に限らず転職した場合も含めて、あなたは今後、どのように仕事をしたいですか。(○は1つ)

- |   |                              |
|---|------------------------------|
| 1 | 会社幹部もしくは管理職としてマネジメントの仕事につきたい |
| 2 | 専門性や技能を活かせるような仕事につきたい        |
| 3 | 社内での地位や仕事内容にこだわらず仕事をしていきたい   |
| 4 | 家庭生活や社会貢献などを優先させながら仕事をしたい    |
| 5 | 仕事をやめたい                      |
| 6 | なりゆきにまかせたい                   |
| 7 | わからない                        |

問 27 あなたは、日頃の生活の中で、どの程度充実感を感じていますか。(○は1つ)

- |   |               |   |                |
|---|---------------|---|----------------|
| 1 | 十分充実感を感じている   | 4 | ほとんど充実感を感じていない |
| 2 | まあ充実感を感じている   | 5 | どちらともいえない      |
| 3 | あまり充実感を感じていない |   |                |

付問 27 - 1 以下の a ~ h について、それぞれどの程度充実感を感じていますか。

(○はそれぞれ1つずつ)

	十分感じている	まあ感じている	あまり感じていない	ほとんど感じていない	どちらともいえない
a 日ごろの仕事	1	2	3	4	5
b 今や将来の仕事のための勉強	1	2	3	4	5
c 趣味やスポーツ	1	2	3	4	5
d 職場の仲間や先輩との付き合い	1	2	3	4	5
e 仕事外の友人や知人との付き合い	1	2	3	4	5
f 家族との会話や交流	1	2	3	4	5
g 休養	1	2	3	4	5
h 地域活動やボランティア	1	2	3	4	5



**IV. ここでは少しさかのぼって、あなたが学校を出た後のことについて、おうかがいします。**

問 28 あなたは、学校を卒業または中退後、初めて収入をとまなう仕事についたのは、いつですか。(○は1つ) また、それは何歳のときでしたか。

※ 在学中のアルバイト先での仕事を卒業後(中退後)も続けた方は、正社員・非正社員の働き方に関係なく、選択肢1を選び、卒業または中退時の年齢と時期をお答えください。

1	学校卒業後(中退後)、すぐについた
2	学校卒業後(中退後)、3カ月未満で仕事についた
3	学校卒業後(中退後)、3カ月以上たってからついた

初めて仕事についた時  歳

時期：西暦     年

問 29 あなたは、どのようにしてその最初の仕事をみつけましたか。もっともあてはまるもの1つをお答えください。(○は1つ)

1	学校の就職指導・紹介で	7	その会社から誘われて
2	公共職業安定所(ハローワーク)の紹介で	8	家業についた
3	民間の職業紹介機関の紹介で	9	自分で事業をはじめた
4	人材派遣企業に登録して	10	在学中からの仕事を続けた
5	新卒採用の求人広告(インターネットや雑誌等を含む)や説明会で	11	家族・親戚の紹介で
6	一般の求人広告(インターネットや雑誌等を含む)や説明会で	12	友人・知人の紹介で
		13	わからない
		14	その他(具体的に： <input type="text"/> )

問 30 その最初の勤務先で、あなたはどのような働き方をしていましたか。(○は1つ)

※ 派遣会社に正社員として雇用されていた派遣社員の方も、「6 派遣社員」を選択してください。

- |   |              |   |                    |
|---|--------------|---|--------------------|
| 1 | 経営者・役員       | 5 | パート・アルバイト・契約・嘱託・臨時 |
| 2 | 自営業主・自由業者・内職 | 6 | 派遣社員               |
| 3 | 家族従業員        | 7 | その他(具体的に: )        |
| 4 | 正規の社員・職員     |   |                    |

問 31 その最初の勤務先で、あなたはどのような仕事をしていましたか。もっとも近いものを1つお答えください。(○は1つ)

- 1 専門・技術的職業(医師、看護師、弁護士、教師、技術者、デザイナーなど)
- 2 管理的職業(企業・官公庁における課長職以上、経営者など)
- 3 事務的職業(企業・官公庁における一般事務、経理、内勤の営業など)
- 4 販売的職業(店主、店員、不動産売買、保険外交、外勤のセールスなど)
- 5 サービス的職業(理・美容師、料理人、ウエイトレス、ホームヘルパーなど)
- 6 技能工・生産工程に関わる職業(製品製造・組み立て、自動車整備、建設作業員、大工、電気工事、農水産物加工など)
- 7 運輸・通信的職業(トラック・タクシー運転手、船員、郵便配達、通信士など)
- 8 保安的職業(警察官、消防官、自衛官、警備員など)
- 9 農・林・漁業に関わる職業(農作物生産、家畜飼養、森林培養・伐採、水産物養殖・漁獲など)
- 10 その他

お仕事の内容を具体的にお答えください。

例) 美容師、レジ係、経理など

問 32 その最初の勤務先の会社全体で働いている人は、何人くらいでしたか。(○は1つ)

- |   |          |    |          |
|---|----------|----|----------|
| 1 | 4人以下     | 6  | 300～499人 |
| 2 | 5～9人     | 7  | 500～999人 |
| 3 | 10～29人   | 8  | 1000人以上  |
| 4 | 30～99人   | 9  | 官公庁(公務員) |
| 5 | 100～299人 | 10 | わからない    |

問 33 その最初の勤務先の職場について、あてはまるものはありますか。(○はいくつでも)

- |    |                               |    |                               |
|----|-------------------------------|----|-------------------------------|
| 1  | ほぼ毎日残業していた                    | 11 | 新人の仕事や生活についての相談<br>相手が決められていた |
| 2  | 人員が常に不足していた                   | 12 | 将来の仕事について相談できる機<br>会があった      |
| 3  | 締め切りや納期がきつい職場であった             | 13 | 研修会などの仕事の知識や技術を<br>高める機会が多かった |
| 4  | 辞める人が多かった                     | 14 | 経験する仕事の順番がはっきりし<br>ていた        |
| 5  | お互いに助け合う雰囲気があった               | 15 | いずれもあてはまらない                   |
| 6  | 一人ひとりが独立して行う仕事が多かった           |    |                               |
| 7  | 職場の人と協力して行う仕事が多かった            |    |                               |
| 8  | 先輩が後輩を教える雰囲気があった              |    |                               |
| 9  | 本人の希望で異動できる仕組みがあった            |    |                               |
| 10 | パートや契約社員などから正社員になれる<br>制度があった |    |                               |

V. 最後に、全員に、あなたご自身・ご家族についておうかがいします。

※ 2008年9月現在でお答えください。

問 34 あなたの性別は。(○は1つ)

- |   |    |
|---|----|
| 1 | 男性 |
| 2 | 女性 |

問 35 あなたの年齢と生年月をご記入ください。

歳 西暦  年  月 生まれ  
(2008年9月現在)

問 36 あなたの最後に在学した学校を教えてください。(○は1つ) また、その学校での  
 学科や専攻をご記入ください。

(1) 学校の種類

- |   |         |   |    |   |     |
|---|---------|---|----|---|-----|
| 1 | 中学      | 4 | 短大 | 7 | 大学院 |
| 2 | 高校      | 5 | 高专 | 8 | その他 |
| 3 | 専門・各種学校 | 6 | 大学 |   |     |

最終学歴の学科・専攻

例：普通科、工業科、経済学部、理工学部など

(2) あなたは最後に通った学校を卒業しましたか。中退しましたか。それとも現在、在  
 学中ですか。(○は1つ) また卒業か中退の方は、その時期をご記入ください。

1	卒業	2	途中退学	3	在学中
---	----	---	------	---	-----

時期：西暦     年

問 37 中学三年生の頃、あなたの成績は学年でどれくらいだったと思われますか。(○は1つ)

- |   |        |   |       |
|---|--------|---|-------|
| 1 | 上の方    | 4 | やや下の方 |
| 2 | やや上の方  | 5 | 下の方   |
| 3 | 真ん中あたり | 6 | わからない |

問 38 あなたは、現在結婚していますか。またご結婚されている場合は、配偶者が収入を  
 ともなう仕事をしていますか。(○はそれぞれ1つずつ)

1	結婚している	⇒ 配偶者が、
2	結婚していない	

1	フルタイムで収入をとまなう仕事をしている
2	パートタイムで収入をとまなう仕事をしている
3	収入をとまなう仕事をしていない

問 39 あなたは、現在どなたと一緒に住んでいますか。(○はいくつでも)

1	単身（一人暮らし）	6	配偶者の父親
2	配偶者	7	配偶者の母親
3	子ども	8	あなた、または配偶者の兄弟姉妹
4	あなたの父親	9	あなた、または配偶者の祖父母
5	あなたの母親	10	その他（具体的に： _____ )

問 40 あなたと一緒に住んでいるご家族のうち、生活費を主に負担しているのはどなたですか。(○は1つ)

1	自分	5	配偶者の父・母
2	配偶者	6	あなた、または配偶者の兄弟姉妹
3	子ども	7	あなた、または配偶者の祖父・祖母
4	あなたの父・母	8	その他（具体的に： _____ )

問 41 あなたは、9月の最後の週（2008年）の所定労働時間と残業時間は1週間あたり何時間でしたか。また1年半前の（2007年3月の最後の週）の所定労働時間は1週間あたり何時間でしたか。あわせて、職場の所在地の都道府県をご記入ください。

(1) 9月の最後の週（2008年）

※働いた方のうち残業時間がなかった方は、記入欄に“0”をご記入ください。なお自営業など残業時間があてはまらない方は残業時間の記入は不要です。

1	働いていた	→	(i) 1週間の所定労働時間 1週間あたり <input type="text"/> 時間 (ii) 残業時間（所定労働時間を超えた時間） 1週間あたり <input type="text"/> 時間 (iii) 職場の所在地 <input type="text"/> 都道 <input type="text"/> 府県
2	働いていなかった		

(2) 1年半前(2007年3月の最終週)

- 1 働いていた
- 2 働いていなかった

(i) 1週間の所定労働時間

- |   |           |    |           |
|---|-----------|----|-----------|
| 1 | 10時間未満    | 6  | 30～35時間未満 |
| 2 | 10～15時間未満 | 7  | 35～40時間未満 |
| 3 | 15～20時間未満 | 8  | 40～45時間未満 |
| 4 | 20～25時間未満 | 9  | 45時間以上    |
| 5 | 25～30時間未満 | 10 | 覚えていない    |

(ii) 職場の所在地

都道  
 府県

問 42 2008年9月と1年半前(2007年3月)に、あなたの給与はどのように支払われていましたか。それは、だいたいおいくらでしたか。番号を1つ選び、おおよそ構いませんので、税込みの金額をご記入ください。

(1) 2008年9月の給与(賞与・残業代を除く)

- 1 時給
- 2 日給
- 3 月給
- 4 年俸
- 5 歩合給
- 6 給与はなかった

- 1 1時間あたり
- 2 1日あたり
- 3 1カ月あたり
- 4 1年あたり

約  ,  万 ,   円

該当する番号を○で囲み、  
金額をご記入ください

(2) 1年半前(2007年3月)の給与(賞与・残業代を除く)

- 1 時給   2 日給   3 月給   4 年俸   5 歩合給   6 給与はなかった   7 働いていなかった

- 1 1時間あたり  
2 1日あたり  
3 1カ月あたり  
4 1年あたり

約 

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

 円

該当する番号を○で囲み、  
金額をご記入ください

質問は以上です。  
長時間にわたりご協力、誠にありがとうございました。

【自由記入欄】

働くことと学ぶことについて、もしご意見がございましたら、ご自由にご記入ください。

# 「働くことと学ぶことについての調査」

## ご協力をお願い

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

労働政策研究・研修機構は、厚生労働省所管の独立行政法人です。

当機構では、このたび、厚生労働省職業能力開発局からの要請をうけて、日本人の働き方と仕事にかかわる能力や知識を高めるための取り組みの実態を把握するために、「働くことと学ぶことについての調査」を実施することとしました。この調査は、能力開発を十分に行える社会環境の整備について検討するための資料とするものです。

調査の結果は、当機構内に設置された「非正社員の活用と人材育成に関する研究会」において分析し、その結果をもとに政策提言を行ってまいります。

日本全体の傾向をつかむため、無作為に選ばせていただいた結果、あなた様に調査へのご回答をお願いさせていただくことになりました。調査は、ご自身でご記入いただくアンケート調査と、調査員のインタビューにお答えいただく面接調査の2つを用いて行います。

ご回答頂きました内容はすべて統計的に集計・分析するため、個人名が他に漏れることはありません。大変お忙しい中誠に恐縮ですが、調査にご協力くださいますようお願い申し上げます。面接調査が終わった時点で、謝礼品（QUOカード、1000円相当）をお渡しする予定です。

なお、調査の実施にあたっては、世論調査の専門調査実施機関である社団法人中央調査社に調査の実施業務を委託しておりますことを申し添えます。

敬具

平成20年10月

独立行政法人 労働政策研究・研修機構  
理事長 稲上 毅

### <非正社員の活用と人材育成に関する研究会>

佐藤 博樹	東京大学社会科学研究所 教授（座長）
香川 めい	立教大学社会学部 助教
黒澤 昌子	政策研究大学院大学 教授
小杉 礼子	労働政策研究・研修機構 統括研究員
佐野 嘉秀	法政大学経営学部 准教授
原 ひろみ	労働政策研究・研修機構 研究員
山本 雄三	労働政策研究・研修機構 臨時研究協力員

### <調査実施>

社団法人 中央調査社 (<http://www.crs.or.jp>)

東京都中央区銀座6-16-12

\*調査への問い合わせは下記にお願いします。

社団法人中央調査社 大阪支社

大阪市中央区備後町4-1-3 時事通信社内

06-6231-6340



\*当機構は厚生労働省所管の独立行政法人です。国内外の労働問題や労働政策について総合的な調査研究等を行うことにより、労働政策の立案や労働政策の効果的で効率的な推進に寄与することを目的とした組織です。詳細についてはインターネットの当機構のHP (<http://www.jil.go.jp>) またはパンフレットをご覧ください。



# 働くことと学ぶこと 面接調査記入用紙 1枚目(1977年度～1992年度)

生年月 西暦 \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 生まれ ( 2008年9月30日現在 満 \_\_\_\_\_ 歳 性別 男・女 ★2枚目に続くときは、生年月と性別を2

		70年代									
項目番号	西暦	年度	1977	1978	1979	1980	1981	1982	1983		
	昭和・平成	年度	昭和 52	昭和 53	昭和 54	昭和 55	昭和 56	昭和 57	昭和 58		
			4 7 10 1 ) ) ) ) 6 9 12 3	4 7 10 1 ) ) ) ) 6 9 12 3	4 7 10 1 ) ) ) ) 6 9 12 3	4 7 10 1 ) ) ) ) 6 9 12 3	4 7 10 1 ) ) ) ) 6 9 12 3	4 7 10 1 ) ) ) ) 6 9 12 3	4 7 10 1 ) ) ) ) 6 9 12 3		
年齢	①	年齢(各年、4月1日現在)									
		できごと	日航機ハイジャック事件	キャンディーズ解散	第二次オイルショック	モスクワ五輪ボイコット	チャールズ・ダイアナ英国皇太子妃結婚	第1次中曽根内閣発足	東京デイズコーラード園 NHK連続ドラマ「おし		
教育	②	1高校/2高専/3短大/4大学/5大学院番号を記入									
	③	6各種・専修学校/7その他の学校番号を記入									
		西暦	年度	1977	1978	1979	1980	1981	1982	1983	
		昭和・平成	年度	昭和 52	昭和 53	昭和 54	昭和 55	昭和 56	昭和 57	昭和 58	
				4 7 10 1 ) ) ) ) 6 9 12 3	4 7 10 1 ) ) ) ) 6 9 12 3	4 7 10 1 ) ) ) ) 6 9 12 3	4 7 10 1 ) ) ) ) 6 9 12 3	4 7 10 1 ) ) ) ) 6 9 12 3	4 7 10 1 ) ) ) ) 6 9 12 3	4 7 10 1 ) ) ) ) 6 9 12 3	
仕事経歴	④	勤務先 主な勤務先の変化(通し番号を記入) 合計[ ]社経験 同時に2つ以上の勤務先に勤めていた場合、副業はこちらの欄に記入									
	⑤	働き方 主な勤務先での働き方の番号を記入(下のリストから選択。)									
	⑥	職業 職業の番号を記入(下のリストから選択・同時に複数ある場合は主なもの1つ。わからない場合は「99」を記入)									
	⑦	無職 無職の期間があったときに○を記入									
	⑧	能力開発 教育訓練(Off-JT)※1を受講した年度に○を記入									
	⑨	能力開発 仕事に関する自己啓発※2を行った年度に○を記入									
			西暦	年度	1977	1978	1979	1980	1981	1982	1983
			昭和・平成	年度	昭和 52	昭和 53	昭和 54	昭和 55	昭和 56	昭和 57	昭和 58
					4 7 10 1 ) ) ) ) 6 9 12 3	4 7 10 1 ) ) ) ) 6 9 12 3	4 7 10 1 ) ) ) ) 6 9 12 3	4 7 10 1 ) ) ) ) 6 9 12 3	4 7 10 1 ) ) ) ) 6 9 12 3	4 7 10 1 ) ) ) ) 6 9 12 3	4 7 10 1 ) ) ) ) 6 9 12 3
ライフイベント	⑩	結婚 結婚した年度に○、している(た)期間に――を引く									
	⑪	子ども 合計[ ] 子どもが生まれた年度に○を記入 人									

- 「学校」のリスト
- 1 高校
  - 2 高等専門学校
  - 3 短期大学
  - 4 大学
  - 5 大学院
  - 6 各種学校・専門学校
  - 7 その他の学校

※在学最終年度の数字を卒業なら「○」、中退なら「△」で囲むこと

- 「働き方」のリスト
- 1 経営者・役員
  - 2 自営業主・自由業者・内職
  - 3 家族従業者
  - 4 正社員・正職員
  - 5 パート・アルバイト、契約、嘱託・臨時(週当たり労働時間が正社員より短い)
  - 6 パート・アルバイト、契約、嘱託・臨時(週当たり労働時間が正社員とほぼ同じ)
  - 7 派遣社員
  - 8 その他

- 「職業」のリスト
- 1 専門・技術的職業
  - 2 管理的職業
  - 3 事務的職業
  - 4 販売的職業
  - 5 サービス的職業
  - 6 技能工・生産工程の職業
  - 7 運輸・通信的職業
  - 8 保安的職業

枚目にも転記すること

整理番号

80年代						90年代				項目番号
1984 昭和 59	1985 昭和 60	1986 昭和 61	1987 昭和 62	1988 昭和 63	1989 平成 元	1990 平成 2	1991 平成 3	1992 平成 4		
4 7 10 1 7  9 12 3 1  2  3  4	4 7 10 1 7  9 12 3 1  2  3  4	4 7 10 1 7  9 12 3 1  2  3  4	4 7 10 1 7  9 12 3 1  2  3  4	4 7 10 1 7  9 12 3 1  2  3  4	4 7 10 1 7  9 12 3 1  2  3  4	4 7 10 1 7  9 12 3 1  2  3  4	4 7 10 1 7  9 12 3 1  2  3  4	4 7 10 1 7  9 12 3 1  2  3  4	4 7 10 1 7  9 12 3 1  2  3  4	① 年齢
グリコ・森永事件	NTTとJT発足 日航機墜落事故	男女雇用機会均 等法施行	JR発足 大韓航空機破事 件	リクルート事件	消費税導入	湾岸戦争	バブル崩壊			
										② 教育
										③
										④
										⑤ 仕事経験
										⑥
										⑦
										⑧
										⑨
										⑩
										⑪ ライフイベント

9 農・林・漁業関連の職業  
10 その他

※1 教育訓練(Off-JT)とは、勤め先の指示で、仕事から離れて参加する講習会や勉強会などのことです。  
 ※2 自己啓発とは、就業時間以外に、勤め先の指示ではなく、自分の意志でおこなった仕事に役立てようとしておこなう勉強のことです。このような勉強を年間20時間以上おこなった場合のみ○をつけてください。  
 例: 5ヶ月の間、毎週1時間英会話学校に通学する(1時間×20週間=20時間)  
 週に1回、30分のラジオ講座を聴いて勉強するのを1年間続ける(30分×52週=26時間)

※1993年以降は2枚目に記入してください。

# 働くことと学ぶこと 面接調査記入用紙 2枚目(1993年度～現在)

生年月 西暦 年 月 日生まれ ( 2008年9月30日現在 満 歳 )性別 男・女

★2枚目に続くときは、生年月と性別を2枚

## 90年代

項目番号	西暦	年度	1993				1994				1995				1996				1997				1998				1999						
	昭和・平成	年度	平成 5				平成 6				平成 7				平成 8				平成 9				平成 10				平成 11						
	月	年	4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10
年齢	①	年齢(各年、4月1日現在)																															
できごと		できごと		皇太子・雅子妃ご成婚				松本サリン事件				阪神大震災 オウム事件				薬害エイズ事件				金融危機(山一證券、北海道拓銀破たん)													
教育	②	1高校/2高専/3短大/4大学/5大学院 番号を記入																															
	③	6各種・専修学校/7その他の学校 番号を記入																															
仕事経験	西暦	年度	1993				1994				1995				1996				1997				1998				1999						
	昭和・平成	年度	平成 5				平成 6				平成 7				平成 8				平成 9				平成 10				平成 11						
	月	年	4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10
④	勤務先	主な勤務先の変化(通し番号を記入)																															
		合計[ ]社経験																															
	同時に2つ以上の勤務先に勤めていた場合、副業はこちらの欄に記入																																
	働き方	主な勤務先での働き方の番号を記入(下のリストから選択。)																															
		職業の番号を記入(下のリストから選択・同時に複数ある場合は主なもの1つ。わからない場合は「99」を記入)																															
	無職	無職の期間があったときに○を記入																															
		教育訓練(Off-JT)※1を受講した年度に○を記入																															
	能力開発	仕事に関する自己啓発※2を行った年度に○を記入																															
西暦	年度	1993				1994				1995				1996				1997				1998				1999							
昭和・平成	年度	平成 5				平成 6				平成 7				平成 8				平成 9				平成 10				平成 11							
月	年	4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10	1
ライフイベント	⑩	結婚	結婚した年に○、している(た)期間に——を引く																														
	⑪	子ども	合計[ ] 子どもが生まれた年に○を記入																														

- 「学校」のリスト
- 1 高校
  - 2 高等専門学校
  - 3 短期大学
  - 4 大学
  - 5 大学院
  - 6 各種学校・専門学校
  - 7 その他の学校
- ※在学最終年度の数字を卒業なら「○」、中退なら「△」で囲むこと

- 「働き方」のリスト
- 1 経営者・役員
  - 2 自営業主・自由業者・内職
  - 3 家族従業者
  - 4 正社員・正職員
  - 5 パート・アルバイト、契約、嘱託・臨時(週当たり労働時間が正社員より短い)
  - 6 パート・アルバイト、契約、嘱託・臨時(週当たり労働時間が正社員とほぼ同じ)
  - 7 派遣社員
  - 8 その他

- 「職業」のリスト
- 1 専門・技術的職業
  - 2 管理的職業
  - 3 事務的職業
  - 4 販売的職業
  - 5 サービス的職業
  - 6 技能工・生産工程の職業
  - 7 運輸・通信的職業
  - 8 保安的職業

女目にも転記すること

整理番号

留置調査の前後

00年代									項目番号	
2000 平成 12	2001 平成 13	2002 平成 14	2003 平成 15	2004 平成 16	2005 平成 17	2006 平成 18	2007 平成 19	2008 平成20		
4 7 10 1 〃 〃 〃 〃 6 9 12 3	4 7 10 1 〃 〃 〃 〃 6 9 12 3	4 7 10 1 〃 〃 〃 〃 6 9 12 3	4 7 10 1 〃 〃 〃 〃 6 9 12 3	4 7 10 1 〃 〃 〃 〃 6 9 12 3	4 7 10 1 〃 〃 〃 〃 6 9 12 3	4 7 10 1 〃 〃 〃 〃 6 9 12 3	4 7 10 1 〃 〃 〃 〃 6 9 12 3	4 7 10 1 〃 〃 〃 〃 6 9 12 3	①	年齢
	第1次小泉内閣発足 アリカ同時 多発テロ			新潟県中越沖地 震	郵政解散					
									②	教育
									③	
									④	
									⑤	仕事経験
									⑥	
									⑦	
									⑧	
									⑨	
									⑩	ライフイベント
									⑪	

9 農・林・漁業関連の職業  
10 その他

※1 教育訓練(Off-JT)とは、勤め先の指示で、仕事から離れて参加する講習会や勉強会などのことです。  
 ※2 自己啓発とは、就業時間以外に、勤め先の指示ではなく、自分の意志でおこなった仕事に役立てようとしておこなう勉強のことです。このような勉強を年間20時間以上おこなった場合のみ○をつけてください。  
 例：5ヶ月の間、毎週1時間英会話学校に通学する(1時間×20週間=20時間)  
 週に1回、30分のラジオ講座を聴いて勉強するのを1年間続ける(30分×52週=26時間)

※1993年以降は2枚目に記入してください。

# 働くことと学ぶこと 面接調査 回答例

生年月 西暦 1964年 5月生まれ ( 2008年9月30日現在 満44歳 ) 性別 (男)・女 ★2枚目に続くときは、生年月と性別を2枚目

それぞれの年にあった大きなイベント、社会現象、事件です。思い出す手がかりにしてください。

70年代

1977 1978 1979 1980 1981 1982 1983

昭和52 昭和53 昭和54 昭和55 昭和56 昭和57 昭和58

4 7 10 1 4 7 10 1 4 7 10 1 4 7 10 1 4 7 10 1 4 7 10 1 4

〃 〃

月 6 9 12 3 6 9 12 3 6 9 12 3 6 9 12 3 6 9 12 3 6 9 12 3 6

① 年齢(各年、4月1日現在) 1 4 1 5 1 6 1 7 1 8 1 9

できごと 日航機ハイジャック事件 キャンデーイズ解散 第二次オイルショック モスクワ五輪ボイコット チャールズ・ダイアナ英国皇太子妃結婚 第1次中曽根内閣発足 東京アスニート開園 NHK連続ドラマ おし

② 1高校/2高専/3短大/4大学/5大学院番号を記入

③ 6各種・専修学校/7その他の学校番号を記入

高校に入学、卒業時は数字を○で囲む(中退の場合は△で囲む)、高校以外の学校も左の欄のあてはまる番号で記入

④ 勤務先 主な勤務先の変化(通し番号を記入) 現在にいたるまでの勤め先の数を合計して記入。 合計[ 3 ]社経験

⑤ 働き方 主な勤務先での働き方の番号を記入(下のリストから選択。)

⑥ 職業 職業の番号を記入(下のリストから選択・同時に複数ある場合は主なもの1つ。わからない場合は「99」を記入)

⑦ 無職 無職の期間があったときに○を記入

⑧ 能力開発 教育訓練(Off-JT)※1を受講した年度に○を記入

⑨ 仕事関係 仕事に関係する自己啓発※2を行った年度に○を記入

⑩ 結婚 結婚した年度に○、している(た)期間に——を引く

⑪ 子ども 合計[ 2 ] 子どもが生まれた年度に○を記入

現在あなたの子供の人数を合計して記入。



「学校」のリスト	
1	高校
2	高等専門学校
3	短期大学
4	大学
5	大学院
6	各種学校・専門学校
7	その他の学校

※在学最終年度の数字を卒業なら「○」、中退なら「△」で囲む

「働き方」のリスト	
1	経営者・役員
2	自営業主・自由業者・内職
3	家族従業者
4	正社員・正職員
5	パート・アルバイト、契約、嘱託・臨時(週当たり労働時間が正社員より短い)
6	パート・アルバイト、契約、嘱託・臨時(週当たり労働時間が正社員とほぼ同じ)
7	派遣社員
8	その他

「職業」のリスト			
1	専門・技術的職業	9	農・林・漁業関連の職業
2	管理的職業	10	その他
3	事務的職業		
4	販売的職業		
5	サービスの職業		
6	技能工・生産工程の職業		
7	運輸・通信的職業		
8	保安的職業		

### 教育訓練の定義

- ※ ここでいう教育訓練とは、具体的には会社(勤め先)に言われて受けた集合研修やセミナー、講習会などです。つまり仕事と関係する教育トレーニングのことで、会社(勤め先)に受講するように指示されて、ふだんの仕事から一時的に離れて受講したものを指します。
- ※ 1年間に半日以上かけて受講した年度だけお答えください。
- ※ ただし、ここでは日常の業務を行いながら、上司や先輩からの指導は除いてください。

### 自己啓発の定義

- ※ 自己啓発には、働いていなかったときに、仕事に役立てようとしておこなった勉強も含みます。また、継続的におこなったものだけお答えいただきたいのですが、目安として、1年間に合計20時間以上おこなったものだけをお答え下さい。たとえば、5ヶ月の間、毎週1時間以上英会話学校に通学した場合、週に1回30分のラジオ講座を聴いて勉強するのを1年間続けた場合、1年間に月に1回ペースで、2時間程度のセミナーに参加したという程度のもので、こうした勉強としては、仕事関係の本の購読、ラジオやテレビ講座の視聴、専門学校や社会人大学院への通学、自主的に勉強会やセミナーに参加することなどをお考えください。

生年月	中学卒業	高校卒業	短大・高専卒業	大学卒業
1963 (昭和38) 4月 ~ 1964 (昭和39) 3月	1978 (昭和53)	1981 (昭和56)	1983 (昭和58)	1985 (昭和60)
1964 (昭和39) 4月 ~ 1965 (昭和40) 3月	1989 (昭和54)	1982 (昭和57)	1984 (昭和59)	1986 (昭和61)
1965 (昭和40) 4月 ~ 1966 (昭和41) 3月	1980 (昭和55)	1983 (昭和58)	1985 (昭和60)	1987 (昭和62)
1966 (昭和41) 4月 ~ 1967 (昭和42) 3月	1981 (昭和56)	1984 (昭和59)	1986 (昭和61)	1988 (昭和63)
1967 (昭和42) 4月 ~ 1968 (昭和43) 3月	1982 (昭和57)	1985 (昭和60)	1987 (昭和62)	1989 (平成元)
1968 (昭和43) 4月 ~ 1969 (昭和44) 3月	1983 (昭和58)	1986 (昭和61)	1988 (昭和63)	1990 (平成2)
1969 (昭和44) 4月 ~ 1970 (昭和45) 3月	1984 (昭和59)	1987 (昭和62)	1989 (平成元)	1991 (平成3)
1970 (昭和45) 4月 ~ 1971 (昭和46) 3月	1985 (昭和60)	1988 (昭和63)	1990 (平成2)	1992 (平成4)
1971 (昭和46) 4月 ~ 1972 (昭和47) 3月	1986 (昭和61)	1989 (平成元)	1991 (平成3)	1993 (平成5)
1972 (昭和47) 4月 ~ 1973 (昭和48) 3月	1987 (昭和62)	1990 (平成2)	1992 (平成4)	1994 (平成6)
1973 (昭和48) 4月 ~ 1974 (昭和49) 3月	1988 (昭和63)	1991 (平成3)	1993 (平成5)	1995 (平成7)
1974 (昭和49) 4月 ~ 1975 (昭和50) 3月	1989 (平成元)	1992 (平成4)	1994 (平成6)	1996 (平成8)
1975 (昭和50) 4月 ~ 1976 (昭和51) 3月	1990 (平成2)	1993 (平成5)	1995 (平成7)	1997 (平成9)
1976 (昭和51) 4月 ~ 1977 (昭和52) 3月	1991 (平成3)	1994 (平成6)	1996 (平成8)	1998 (平成10)
1977 (昭和52) 4月 ~ 1978 (昭和53) 3月	1992 (平成4)	1995 (平成7)	1997 (平成9)	1999 (平成11)
1978 (昭和53) 4月 ~ 1979 (昭和54) 3月	1993 (平成5)	1996 (平成8)	1998 (平成10)	2000 (平成12)
1979 (昭和54) 4月 ~ 1980 (昭和55) 3月	1994 (平成6)	1997 (平成9)	1999 (平成11)	2001 (平成13)
1980 (昭和55) 4月 ~ 1981 (昭和56) 3月	1995 (平成7)	1998 (平成10)	2000 (平成12)	2002 (平成14)
1981 (昭和56) 4月 ~ 1982 (昭和57) 3月	1996 (平成8)	1999 (平成11)	2001 (平成13)	2003 (平成15)
1982 (昭和57) 4月 ~ 1983 (昭和58) 3月	1997 (平成9)	2000 (平成12)	2002 (平成14)	2004 (平成16)
1983 (昭和58) 4月 ~ 1984 (昭和59) 3月	1998 (平成10)	2001 (平成13)	2003 (平成15)	2005 (平成17)

## 働くことと学ぶこと 面接調査質問票(ライフヒストリーカレンダー調査)

(9075)

2008年10月

## 調査員注意事項

面接(ライフヒストリーカレンダー)調査の目的は、人々の学校経験や職業経験、結婚や出産などのライフイベントの経験の経年変化を余さず記録することにあります。そのため、つねに対象者の生活史を正確に書き留めることを優先して聞き取りをおこなってください。

この質問票に基づいて、対象者に質問し、回答は、面接調査記入用紙に記入する。

記録にあたっては、「いつからいつまで(期間)、どういう状態(状態)にあったのか」という「期間」と「状態」の情報を途切れなく、連続して記録するように心がけてください。

- ◆ 記入は黒鉛筆(濃いもの)で行うこと。ボールペンは使わない。
- ◆ マニュアルにない特殊な回答に対しては、余白を有効に活用して臨機応変に対応すること。
- ◆ 教育歴、職業経歴、および結婚についてのカレンダーは3ヶ月単位のマスで記入できるようになっている。対象者が月まで細かく記憶している場合や、単一年度に複数の変化があった場合はこのマスを利用して、できるだけ正確に情報を記入すること。
- ◆ 対象者が月まで細かく記憶していない場合で同一年度に複数回の変化がない場合は、年度単位で記録する。
- ◆ カレンダーの暦年は年ではなく年度(4月に始まり翌年の3月で終わる)を採用していることに注意すること
- ◆ 同じ状態が何年かに渡って継続する場合は、始まりと終わりのマスに数字を記入し間は「——」でつなぐこと。

## 1. 面接調査開始前に

①対象者に調査協力依頼して、そのまま、面接調査に協力してもよいと言った場合は、

回答例を対象者の前面に広げて、

**「このように、学校のことや仕事のことを順々に尋ねていきます。このシートを見ながらあなたご自身の過去を振り返ってお答えください。」**と述べて、調査を開始する。

②留置調査票を回収後に面接調査を行う場合は、

留置調査票を渡す際に対象者の生年月を聞いておいて、面接調査記入用紙の生年月の欄に生年と月、2008年9月30日時点での満年齢を記入する。また、学校卒業年度早見表から面接調査記入用紙の年齢欄に中学卒業年度(中3の4月1日時点)の年齢「14」を該当年度の欄に記入する。

**「ご記入が済んだ留置調査票をいただく際にあなた様のこれまでの働き方などをお伺いいたします。回答例、**



【生年月】・【中学卒業年度】

**記入用紙を見ながら、これまでの生活を思い起こしていただければ幸いです。おわかりになるところは、記入していただいてもかまいません**」と言って、対象者に回答例と記入用紙を渡す。訂正できるように対象者には必ず黒の普通鉛筆を使用してもらう。

留置調査票を回収後、あらためて、

**「この調査は、厚生労働省職業能力開発局からの要請を受けて、実施されるものです。日本人の全般的な働き方と仕事のためのスキルや知識を高めるための取り組みの実態を把握し、能力開発を十分に行える社会環境の在り方についての検討資料とすることを目的としています。」**

(回答例を対象者の前面に広げて)

**「このように、学校のことや仕事のことなどを順々に尋ねていきます。このシートを見ながらあなたご自身の過去を振り返ってお答えください。少し立ち入った質問もいたしますが、おうかがいした内容は、数字や記号で記録し、統計的に処理します。個人が特定できるような形で用いることは一切ありませんし、のちのち皆様にご迷惑をおかけすることは決してありません。もちろん、お答えになれる範囲でのご回答で結構です。調査の趣旨をご理解いただき、なにとぞご協力いただきますようお願いいたします。」**

と述べて、調査を開始する。(対象者の記入があった場合も質問しながら確認していく)

## 2. 調査開始

問1. 生年月

**はじめに、あなたの生年月を教えてください。今年の9月30日時点で、満何歳になられますか。**

\*調査員注：依頼時に聞いている場合は、〇〇年〇〇月生まれ、今年の9月30日現在で〇〇歳で間違いありませんかと確認する。

問2. 中学卒業程度

調査員注：生年月と学校卒業年度早見表を見て、中学卒業年度のあたりをつけて、

**中学校を卒業されたのは〇〇年度ですね。**

と確認する。

【生年月】・【中学卒業年度】 記入すること・記入上の注意

生年月		西暦 1964年 2月生まれ ( 2008年9月30日現在 満44歳 )				性別 (男)・女													
<b>70年代</b>																			
項目 番号	西暦	年度	1977		1978		1979		1980										
	昭和・平成	年度	昭和 52		昭和 53		昭和 54		昭和 55										
			4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10	1	
			6	9	12	3	6	9	12	3	6	9	12	3	6	9	12	3	
年齢	①	年齢(各年、4月1日現在)					1	4	1	5	1	6							
		できごと	日航機ハイジャック 事件		キャンデイス解散		第二次 オイルショック		モスクワ五輪 ボイコット										
教育	②	1高校/2高専/3短大/4大学/5大学院 番号を記入																	
	③	6各種・専修学校/7その他の学校 番号を記入																	
		西暦	年度	1977		1978		1979		1980									
		昭和・平成	年度	昭和 52		昭和 53		昭和 54		昭和 55									
				4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10	1
				6	9	12	3	6	9	12	3	6	9	12	3	6	9	12	3

問1. 記入事項

- 記入票上部の生年月の欄に、生年と月、2008年9月30日時点での満年齢を記入する。  
1978年4月以降の生まれの対象者は、記入票2枚目(1993年-2008年の表)のみ記入、1978年3月以前に生まれた対象者は、記入票1枚目、2枚目にも記入すること。(調査終了後に記入してもよい)

問2. 記入事項

- 年齢欄(①)の中学を卒業した年度に「14」を記入する。(卒業年度の4月1日時点の年齢を記入するため)  
\*対象者が年度ではなく暦年で回答する場合もあるが、適宜年度に変換すること。1992年の3月に中学校を卒業した場合は、1991年度になる。(日本の中学校の場合は、標準年限で卒業することが通常であるので、本質問票巻末、または回答例の早見表の年度の年ではほぼ間違いはない。)
- 現在の年齢に達するまで、年齢欄(①)のすべての年度に年齢を記入し、2008年度のマスに記入した年齢と 2008年4月1日時点の対象者の年齢が一致するかどうかを確認する。(4月から9月生まれの場合は、「現年齢-1」歳になることに注意)。  
\*年齢の記入が多く、時間的な余裕のない場合は、最初の数年間はすべての年齢を記入し(教育歴で在学期間を混乱するケースが多いので、学校に通っている期間は必ず年齢を記入すること)、その後は5歳刻みなど目安になる年齢のみを記入する方法をとってもよい。その場合にも、調査終了後にすべての年齢欄を必ず記入すること。

【教育歴】

記入票が2枚になる場合には、1枚目と2枚目の年齢に不整合が生じないように、注意すること。

問3. 教育歴(学校リスト)

**次に、あなたが通ったことのある学校についておたずねします。中学卒業後に、上の学校に進学されましたか。(進学している場合) (学校リスト)の中から当てはまる学校をお答えください。**

- |           |                         |
|-----------|-------------------------|
| 1. 高校     | 5. 大学院                  |
| 2. 高等専門学校 | 6. 各種学校・専門学校            |
| 3. 短期大学   | 7. その他の学校               |
| 4. 大学     | 8. 進学していない →(8ページ問7へ進む) |

付問1

**その学校には、中学校を卒業してすぐに進学されましたか？**

1. 中学卒業後、すぐ進学した → (右頁を参照して、学校番号を記入して問4へ)
2. 中卒後、しばらくしてから進学

付問2

**その学校に進学したのは、何歳のときですか。(または何年度ですか)**

1. (〇〇歳のとき)〇〇年度に進学した → (右頁を参照して、学校番号を記入して問4へ)

問4. 中卒後の学校1

調査員注:学校卒業年度早見表を見て、学校を卒業した年度のあたりをつけ、学校を出た年度を確認する。

**その学校(高校/高等専門学校/各種学校・専門学校)を卒業したのは、〇〇年度ですね。**

1. 〇〇年度まで通学した → (右頁を参照して通学期間を記入して問5へ)

(対象者の回答が上記の年度でない場合(標準年限で卒業していない場合)や中退している場合は)

付問

**その学校には何年間通われましたか。卒業されましたか、中退されましたか。**

1. 〇〇年間(〇〇年度まで)通学した → (右頁を参照して通学期間を記入して問5へ)

【教育歴】 記入すること・記入上の注意

問3. 記入事項

「1～7」は付問1～2を回答するまで記入しない。

付問1～2. 記入事項

「1 中学卒業後、すぐ進学した」は、面接調査記入用紙の年齢の回答欄で「15」を記入した年度の教育欄のマスに該当する学校の番号(学校リスト)を記入する

「2..中卒後、しばらくしてから進学」と回答した場合は、付問2で回答した年度の教育欄のマスに該当する学校番号(学校リスト)を記入する

問4. 記入事項

●在学期間を記入する。

▶ 教育欄 (②、③) の卒業した年度のマスに、該当の学校番号を記入し、在学期間に「—」を引く (高校なら「1」)。

卒業と中退の区別をするために、最終年度の学校番号の数字を、卒業なら○で、中退なら△で囲む。

		70年代																					
項目番号	西暦	年度	1977			1978			1979			1980			1981								
	昭和・平成	年度	昭和 52			昭和 53			昭和 54			昭和 55			昭和 56								
		月	4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10	1	
			∧	∧	∧	∧	∧	∧	∧	∧	∧	∧	∧	∧	∧	∧	∧	∧	∧	∧	∧	∧	
		月	6	9	12	3	6	9	12	3	6	9	12	3	6	9	12	3	6	9	12	3	
年齢	①	年齢(各年、4月1日現在)					1	4			1	5			1	6			1	7			
		できごと					日航機ハイジャック事件				キャンディーズ解散				第二次オイルショック				モスクワ五輪ボイコット				チャールズ・ダイアナ英国皇太子妃結婚
教育	②	1高校/2高専/3短大/4大学/5大学院番号を記入									1											①	
	③	6各種・専修学校/7その他の学校番号を記入																					
		西暦	年度	1977			1978			1979			1980			1981							
		昭和・平成	年度	昭和 52			昭和 53			昭和 54			昭和 55			昭和 56							
		月	4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10	1	
			∧	∧	∧	∧	∧	∧	∧	∧	∧	∧	∧	∧	∧	∧	∧	∧	∧	∧	∧	∧	
		月	6	9	12	3	6	9	12	3	6	9	12	3	6	9	12	3	6	9	12	3	

【教育歴②】

問5. 教育歴

**その学校を出た後、上の学校に進学されましたか？(進学している場合)それは(学校リスト)の中から当てはまる番号をお答えください。予備校は「6.各種学校・専門学校」としてください。**

- |           |                        |
|-----------|------------------------|
| 1. 高校     | 5. 大学院                 |
| 2. 高等専門学校 | 6. 各種学校・専門学校           |
| 3. 短期大学   | 7. その他の学校              |
| 4. 大学     | 8. 進学していない → (8ページ問7へ) |

付問1

**(進学している場合)その学校に進学したのは、何歳の時ですか。(または何年度ですか)。**

1. (〇〇歳のとき)〇〇年度に進学した → (右頁を参照して、学校番号を記入して付問2へ)

付問2

**その学校には何年間通われましたか。卒業されましたか、中退されましたか。**

1. 〇〇年度まで通学した → (右頁を参照して通学期間を記入して問6へ)

問6. 教育歴

**これまでお答えいただいた学校のほかに(高校以上の)学校に通った経験はありますか？(進学している場合)それは(学校リスト)の何番目の学校ですか。予備校は「6.各種学校・専門学校」としてください。**

- |           |                        |
|-----------|------------------------|
| 1. 高校     | 5. 大学院                 |
| 2. 高等専門学校 | 6. 各種学校・専門学校           |
| 3. 短期大学   | 7. その他の学校              |
| 4. 大学     | 8. 進学していない → (8ページ問7へ) |

付問1

**(進学している場合)その学校に進学したのは、何歳の時ですか。(または何年度ですか)。**

1. (〇〇歳のとき)〇〇年に進学した → (右頁を参照して、学校番号を記入して付問2へ)

付問2

**その学校には何年間通われましたか。卒業されましたか、中退されましたか。**

1. 〇〇年(〇〇年度まで)通学した

**(右頁を参照して通学期間を記入する。問6に戻り、通った学校の分だけ問6をくり返す)**

【教育歴②】 記入すること・記入上の注意

問5～問6. 記入事項

●入学年度のマスに学校番号を記入する。

▶ 短大 (=3)、大学 (=4)、大学院 (=5) の場合は教育欄 (②) のマスに記入

各種学校・専門学校 (=6)、その他の学校 (=7) の場合は、教育欄 (③) のマスに記入

●在学期間を記入する。

▶ 入学年度に続けて教育欄 (②) もしくは教育欄 (③) の卒業年度のマスに、該当の学校リストの番号を記入し、在学期間に「—」を引く。

卒業と中退の区別をするために、最終年度の学校リスト番号の数字を、卒業なら○で、中退なら△で囲む。

●浪人中に予備校、学習塾に行かず、自宅で勉強していた場合は、無職となるので、無職の欄に○を付けて、浪人と記載する。

●これまでと同様に、教育歴を記入する。

▶ 入学年度のマスに学校番号を記入。

▶ 卒業年度のマスに学校番号を記入し、在学期間に「—」を引く

卒業と中退の区別をするために、最終年度の学校番号の数字を、卒業なら○で、中退なら△で囲む。

項目番号	西暦 昭和・平成	年度 年度	1979				1980				1981				1982				1983				1984							
			昭和 54				昭和 55				昭和 56				昭和 57				昭和 58				昭和 59							
			4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10	1
月			6	9	12	3	6	9	12	3	6	9	12	3	6	9	12	3	6	9	12	3	6	9	12	3	6	9	12	3
①	年齢(各年、4月1日現在)		1	5				1	6				1	7				1	8				1	9				2	0	
	できごと		第二次 オイルショック				モスクワ五輪 ボイコット				チャールズ・ダイアナ 英国皇太子妃結婚				第1次中曽根内閣 発足				東京デイスニーク 開園 NHK連続ドラマ 「おし」				グリコ・森永事件							
②	1高校/2高専/3短大/4大学/5大学院 番号を記入		1																											
③	6各種・専修学校/7その他の学校 番号を記入																						6						⑥	
	西暦 昭和・平成	年度 年度	1979				1980				1981				1982				1983				1984							
			昭和 54				昭和 55				昭和 56				昭和 57				昭和 58				昭和 59							
			4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10	1
月			6	9	12	3	6	9	12	3	6	9	12	3	6	9	12	3	6	9	12	3	6	9	12	3	6	9	12	3
④	勤務先	主な勤務先の変化(通し番号を記入)																												
		合計[ ]社経験																												
		同時に2つ以上の勤務先に勤めていた場合、副業はこちらの欄に記入																												
⑤	働き方	主な勤務先での働き方の番号を記入(下のリストから選択。)																												
⑥	職業	職業の番号を記入(下のリストから選択・同時に複数ある場合は主なもの1つ。わからない場合は「99」を記入)																												
⑦	無職	無職の期間があったときに○を記入																												

浪人

【学校を出たあと最初の仕事】

今度は、お仕事の経験についておたずねします。学校を出たあとに就いた最初のお仕事について教えてください。学校に通っていたときになさっていたお仕事を、学校を出たあとも続けた場合は、それを最初のお仕事とお考えください。

問7. 初職

**最初の会社(勤務先)に入ったのはいつですか。その会社で働いていたのはいつまでですか。**

**自営業主、家族従業者、自由業、内職なども含めてお答えください。派遣社員で働いた方は、派遣元ではなく、派遣先でお答え願います。**

**雇用されている人の「勤務先」は、雇い主である企業、工場、商店、官公庁、公社などの他団体等のことであり、狭い意味での職場ではありません。よって、会社員の転勤や教員の同一教育委員会内での異動は、勤め先が替わったことには含めません。ただし出向や転籍おほかの会社に替わったことに含めます。**

(働き始めた時期が思い出せない場合は、)

**最初のお仕事についたのは、学校を出られたのよりも前ですか、それとも後ですか。その仕事は何年間くらい働いていらっしゃいましたか。**

- 1 ○○年△月から○○年△月働いた (右頁を参照して、初職の期間を記入して10ページ付問へ)
- 2 今まで働いたことがない → (右頁を参照して、無職期間を記入して20ページへ)

【学校を出たあと最初の仕事】記入すること・記入上の注意

問7. 記入事項

●最初の会社で働いていた期間を仕事経験(4)「勤務先」に記入する。

▶ 最初の会社(勤務先)に入った年度のマスに「1」を記入する。辞めた年度のマスに「1」を記入し、働いていた期間に「—」を引く。「1」は勤務先番号を意味し、以後は通し番号(「2」「3」・・・)を用いて記入する。初職の場合のみ、やめたのは3ヶ月未満であっても3ヶ月働いたこととして、記載する。現在も同じ会社で働き続けているのであれば、終了の「1」は記入せず、現在まで「—」を引く。

職業経験がまったくない場合は、学校を出たあとすべての期間を無職とみなし、仕事経験⑦ 無職の欄に無職期間の開始と終了のマスに○を記入し、間に「—」を引く。

仕事経験 勤務先(4)に関する注意事項

▶ 同じ時点で1つではなく複数の勤務先で同時並行的に働いている場合には、その勤務先にも番号を与える。副業の勤務先番号は、仕事経験④の2行目に記入すること。どれを主とし、どれを副とするかは、対象者の判断に委ねるが、迷う場合には労働時間の長いものを主とする。【ここで想定しているのは、「コンビニ店員(昼)+塾講師(夜)」、「農業(休日)+会社勤め(平日)」といったケースである。本業の延長として勤め先以外の機関から兼業収入を得ているケース(医者と大学教師の兼職など)はこれに含めない】

職業歴が複雑で、記入が著しく困難な場合は、余白などに具体的な状態をメモする。後から他の人は客観的に読み取れるような記入を心がけること。

項目番号	西暦		1983				1984				1985				1986				1987				1988						
	昭和・平成		昭和 58				昭和 59				昭和 60				昭和 61				昭和 62				昭和 63						
	年	度	4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10
月	6	9	12	3	6	9	12	3	6	9	12	3	6	9	12	3	6	9	12	3	6	9	12	3	6	9	12	3	
①	年齢(各年、4月1日現在)		1 9				2 0				2 1				2 2														
	できごと		東京ディズニーランド開園 NHK連続ドラマ「おし」				グリコ・森永事件				NTTとJT発足 日航機墜落事故				男女雇用機会均等法施行				JR発足 大韓航空機爆破事件				リクルート事件						
②	1高校/2高専/3短大/4大学/5大学院 番号を記入																												
③	6各種・専修学校/7その他の学校 番号を記入		6 —————				⑥																						
項目番号	西暦		1983				1984				1985				1986				1987				1988						
	昭和・平成		昭和 58				昭和 59				昭和 60				昭和 61				昭和 62				昭和 63						
	年	度	4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10
月	6	9	12	3	6	9	12	3	6	9	12	3	6	9	12	3	6	9	12	3	6	9	12	3	6	9	12	3	
④	勤務先	主な勤務先の変化(通し番号を記入)										1 —————								1									
		合計[ ]社経験																											
⑤	働き方	同時に2つ以上の勤務先に勤めていた場合、副業はこちらの欄に記入																											
		主な勤務先での働き方の番号を記入(下のリストから選択。)										4 —————								4 5									



【学校を出たあと最初の仕事】

付問1

「働き方リスト」を対象者に見てもらい、最初の勤務先での「働き方」について質問する。

**その会社に入ったときの働き方、「働き方リスト」の何番にあてはまりますか。**

調査員注:「パート・アルバイト、契約、嘱託、臨時」の場合は労働時間を確認する

**1週間の労働時間は、正社員の方と同じくらいでしたか、それとも短かったですか。**

- |  |            |
|--|------------|
| 1. 経営者・役員                                | 3. 家族従業者   |
| 2. 自営業主・自由業者・内職                          | 4. 正社員・正職員 |
| 5. パート・アルバイト、契約、嘱託・臨時(週当たり労働時間が正社員より短い)  |            |
| 6. パート・アルバイト、契約、嘱託・臨時(週当たり労働時間が正社員とほぼ同じ) |            |
| 7. 派遣社員                                  | 8. その他     |

(右頁を参照して記入)

付問2

**同じ会社で働いている間に「働き方」が変化したこと、例えば、アルバイトから正社員になったことなどはありましたか。(「働き方」に変化があった場合)それはいつからですか。「働き方リスト」の何番目に該当しますか。その後に「働き方が」変わったことはありませんか。**

- 1 変化がなかった
- 2 変化があった(〇〇年△月に〇〇から〇〇に変わった)

(右頁を参照して記入)

付問3

「職業リスト」を対象者に見せ、職業の内容と従事していた期間についてたずねる。

**その会社であなたが働き始めたときにしていたお仕事はどんな内容だったでしょうか。「職業リスト」の中から当てはまる番号をお答えください。同時に複数の番号に当てはまるお仕事をなさっていた場合は、主なものを1つお答えください。**

- |             |                |
|-------------|----------------|
| 1. 専門・技術的職業 | 6. 技能工・生産工程の職業 |
| 2. 管理的職業    | 7. 運輸・通信的職業    |
| 3. 事務的職業    | 8. 保安的職業       |
| 4. 販売的職業    | 9. 農・林・漁業関連の職業 |
| 5. サービス的職業  | 10. その他        |

(右頁を参照して記入)

付問4

**同じ会社に勤めている間に、お仕事の内容が大きく変わったことはありませんか。(ある場合)それはいつからですか。**

- 1 変化がなかった
- 2 変化があった(〇〇年△月に〇〇から〇〇に変わった)

(右頁を参照して記入)

【学校を出たあと最初の仕事】 記入すること・記入上の注意

付問1 記入事項

- 働き方リストの番号を、仕事経験 (⑤) 「働き方」 に記入する。
- ▶ 働き始めた年度と終わりの年度のマスに数字を記入し、間を「—」で引く。
- ▶ 「パート・アルバイト、契約、嘱託、臨時」は、週あたりの労働時間によって番号が異なる(5 または 6)ので注意する。

複数の会社(勤務先)で働いている場合は、主となる会社(主な勤務先)での「働き方」を記入すること。

付問2 記入事項

同じ会社で働いている途中で「働き方」が変わった場合は、開始時期と終了時期に「職業リスト」の番号を記入し、間を「—」で引く。

付問3 記入事項

- 職業リストの該当する番号を仕事経験 (⑥) 「職業」 のマスに記入する。
- ▶ 働き始めた年度と終わりの年度のマスに、該当の数字を記入し、その「職業」を続けた期間に「—」を引く。

付問4 記入事項

同じ会社で働いている途中で職業の内容が変わった場合は、同様に、その「職業」の番号を開始時、および終了時のマスに記入し、間の期間に「—」を引く。

同一年度に複数の主な「職業」の変化を経験した場合には、3ヶ月のマスを利用して記入する。

項目番号	西暦 昭和・平成	年度 年度	1983				1984				1985				1986				1987				1988							
			昭和 58				昭和 59				昭和 60				昭和 61				昭和 62				昭和 63							
			4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10	1
		月	6	9	12	3	6	9	12	3	6	9	12	3	6	9	12	3	6	9	12	3	6	9	12	3	6	9	12	3
①	年齢(各年、4月1日現在)		1 9				2 0				2 1				2 2															
	できごと		東京アイスノード開園 NHK連続ドラマ「おし				グリコ・森永事件				NTTとJT発足 日航機墜落事故				男女雇用機会均等法施行				JR発足 大韓航空機爆破事件				リクルート事件							
②	1高校/2高専/3短大/4大学/5大学院 番号を記入																													
③	6各種・専修学校/7その他の学校 番号を記入		6																											
		月	6	9	12	3	6	9	12	3	6	9	12	3	6	9	12	3	6	9	12	3	6	9	12	3	6	9	12	3
④	勤務先	主な勤務先の変化(通し番号を記入) 合計[ ]社経験										1								1										
		同時に2つ以上の勤務先に勤めていた場合、副業はこちらの欄に記入																												
⑤	働き方	主な勤務先での働き方の番号を記入(下のリストから選択。)										4								4 5										
⑥	職業	職業の番号を記入(下のリストから選択・同時に複数ある場合は主なもの1つ。わからない場合は「99」を記入)										3								3										

【職業経歴】

問8. 初職後の就業

a(問7で聞いた最初の会社に今も勤めている場合) **これまでにお勤めになったことがあるのは、現在もお勤めになっている1社だけです。**

- 1 1社だけ————→ (右頁を参考に勤務先数を記入して、20ページ問11へ)
- 2 2社以上働いた(1社目の勤務、働き方、職業の期間を変更して付問1へ)

b(問7で聞いた最初の会社に現在は勤めていない場合) **その会社に勤めたあとの、職業の経歴についておうかがいします。短い職歴がたくさんある場合は、3ヶ月以上続いたものについてのみお答えください。その会社(仕事)をお辞めになったあと、ほかの会社(仕事)にお勤めになったことはありますか。自営業主、家族従業者、自由業、内職なども含めてお答えください。派遣社員で働いた方は、派遣元ではなく、派遣先でお答え願います。**

**雇用されている人の「勤務先」は、雇い主である企業、工場、商店、官公庁、公社などの他団体等のことであり、狭い意味での職場ではありません。よって、会社員の転勤や教員の同一教育委員会内での異動は、勤め先が替わったことには含めません。ただし出向や転籍おほかの会社に替わったことに含めます。**

- 1 ほかの会社で働いた
- 2 ほかの会社で働いたことがない————→ (右頁を参考に勤務先数、無職期間を記入して、20ページ問11へ)

付問1

**その会社(勤め先)を辞めてから、次の勤め先に入るまでに3ヶ月以上働いていない期間がありましたか。**

- 1 あった(右頁を参考に無職期間を記入して、14ページ問9へ)
- 2 ない————→ (14ページ問9へ)

【職業経歴】 記入すること・記入上の注意

問8. 記入事項

a 勤務先の数が1社のみであることが確認できたら、仕事経験④ 勤務先の「合計 [ ] 社経験」のところに「1」を記入する。

④	勤務先	主な勤務先の変化(通し番号を記入) 合計[ ]社経験
		同時に2つ以上の勤務先に勤めていた場合、副業はこちらの欄に記入

b 最初の「会社」にしか勤めたことがない場合

● 無職期間と合計勤務先数を記入する。

\* 最初の会社(勤め先)を辞めてからは、ずっとお仕事をなさった経験はないのですね。

と、ずっと無職であったことを確認し、仕事経験⑦(無職)の欄の該当する期間に「○」を記入する。

▶ 無職期間が長期にわたる場合は、期間の最初と最後のマスに○を記入し、間を「—」で引いてもよい。

▶ これまでにお勤めになったことがあるのは、1社だけです。

と経験したことのある勤務先の数を確認し、仕事経験④(勤務先)の「合計 [ ] 社経験」のところに「1」を記入する。

④	勤務先	主な勤務先の変化(通し番号を記入) 合計[ ]社経験
		同時に2つ以上の勤務先に勤めていた場合、副業はこちらの欄に記入

無職期間は3ヶ月未満

次の会社(勤め先)について、仕事経験④勤務先～⑥職業をたずねる

無職期間が3ヶ月以上

\* 働いていなかったのはどのくらいの期間ですかと無職期間をたずね、該当する期間に「○」を記入する。

無職期間の開始と終了のマスに「○」を記入し、間に「—」を引いてもよい。

	西暦 昭和・平成	年度 年度	1985 昭和 60				1986 昭和 61				1987 昭和 62				1988 昭和 63				1989 平成 元				1990 平成 2				1991 平成 3			
			4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10	1				
			月	6	9	12	3	月	6	9	12	3	月	6	9	12	3	月	6	9	12	3	月	6	9	12	3			
④	勤務先	主な勤務先の変化(通し番号を記入) 合計[ ]社経験	1												1				2								2			
		同時に2つ以上の勤務先に勤めていた場合、副業はこちらの欄に記入																												
⑤	働き方	主な勤務先での働き方の番号を記入(下のリストから選択。)	4								4				5				5											
⑥	職業	職業の番号を記入(下のリストから選択・同時に複数ある場合は主なもの1つ。わからない場合は「99」を記入)	3												3															
⑦	無職	無職の期間があったときに○を記入													○ ○ ○															

【職業経歴】

問9. 初職後の就業②

次の勤務先での勤続期間を確認する。

**次の会社(勤め先)で働いていらしたのは、いつ(何歳のとき)から、いつ(何歳のとき)までですか。**

- 1 ○○年△月から○○年△月働いた(右頁を参考に就業期間を記入する)

【職業経歴】 記入すること・記入上の注意

問9. 記入事項

●その勤務先で働いていた期間を仕事経験④（勤務先）に記入する。

▶ 勤務先は通し番号で記入する。（2番目の会社であれば「2」を3番目の会社であれば「3」）

従業を開始した年度と終了した年度のマスに、勤務先番号の数字を記入し、間に「—」を引く。

▶ 同一年度内に複数の移動があったときは3ヶ月のマス目を利用して記録すること。

▶ 職歴の空白が3ヶ月以上あった時は、その期間を「無職」とし、⑦無職の該当する時点のマスに○を記入する。

▶ 同じ時点で1つではなく複数の勤務先で同時並行的に働いている場合には、その勤務先にも番号を与える。  
副業の勤務先番号は、仕事経験④の2行目に記入すること。どれを主とし、どれを副とするかは、対象者の判断に委ねるが、迷う場合には労働時間の最も長いものを主とする。【ここで想定されているのは、「コンビニ店員(昼)+塾講師(夜)」、「農業(休日)+会社勤め(平日)」といったケースである。本業の延長として勤め先以外の機関から兼業収入を得ているケース(医者や大学教師の兼職)はこれに含めない】

▶ 出向や転籍の場合は、勤務先(会社)が替わったとして、通し番号を変更する。その際、新しい通し番号の近くに「出向」や「転籍」と記載する。

職業歴が複雑で、形式的な記入が著しく困難な場合、余白などに具体的な状態をメモする。後から他の人は客観的に読み取れるような記入を心がけること。

	西暦 昭和・平成	年度 年度	1989				1990				1991				1992			
			平成 元				平成 2				平成 3				平成 4			
			4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10	1
		月	6	9	12	3	6	9	12	3	6	9	12	3	6	9	12	3
④	勤務先	主な勤務先の変化(通し番号を記入) 合計[ ]社経験	2—				—2				3				出向			
		同時に2つ以上の勤務先に勤めていた場合、副業はこちらの欄に記入	1—1															
⑤	働き方	主な勤務先での働き方の番号を記入(下のリストから選択。)	7—				7 4—				4 4							
⑥	職業	職業の番号を記入(下のリストから選択・同時に複数ある場合は主なもの1つ。わからない場合は「99」を記入)	5—								5 5							
⑦	無職	無職の期間があったときに○を記入	○															

【学校を出たあと最初の仕事】

付問1

「働き方リスト」を対象者に見てもらい、最初の勤務先での「働き方」について質問する。

**その会社に入ったときの働き方、「働き方リスト」の何番にあてはまりますか。**

調査員注:「パート・アルバイト、契約、嘱託、臨時」の場合は労働時間を確認する

**1週間の労働時間は、正社員の方と同じくらいでしたか、それとも短かったですか。**

- |  |            |
|--|------------|
| 1. 経営者・役員                                | 3. 家族従業者   |
| 2. 自営業主・自由業者・内職                          | 4. 正社員・正職員 |
| 5. パート・アルバイト、契約、嘱託・臨時(週当たり労働時間が正社員より短い)  |            |
| 6. パート・アルバイト、契約、嘱託・臨時(週当たり労働時間が正社員とほぼ同じ) |            |
| 7. 派遣社員                                  | 8. その他     |

(右頁を参照して記入)

付問2

**同じ会社で働いている間に「働き方」が変化したこと、例えば、アルバイトから正社員になったことなどはありましたか。(「働き方」に変化があった場合)それはいつからですか。「働き方リスト」の何番目に該当しますか。その後に「働き方が」変わったことはありませんか。**

- 1 変化がなかった
- 2 変化があった(〇〇年△月に〇〇から〇〇に変わった)

(右頁を参照して記入)

付問3

「職業リスト」を対象者に見せ、職業の内容と従事していた期間についてたずねる。

**その会社であなたが働き始めたときにしていたお仕事はどんな内容だったでしょうか。「職業リスト」の中から当てはまる番号をお答えください。同時に複数の番号に当てはまるお仕事をなさっていた場合は、主なものを1つお答えください。**

- |             |                |
|-------------|----------------|
| 1. 専門・技術的職業 | 6. 技能工・生産工程の職業 |
| 2. 管理的職業    | 7. 運輸・通信的職業    |
| 3. 事務的職業    | 8. 保安的職業       |
| 4. 販売的職業    | 9. 農・林・漁業関連の職業 |
| 5. サービス的職業  | 10. その他        |

(右頁を参照して記入)

付問4

**同じ会社に勤めている間に、お仕事の内容が大きく変わったことはありませんか。(ある場合)それはいつからですか。**

- 1 変化がなかった
- 2 変化があった(〇〇年△月に〇〇から〇〇に変わった)

(右頁を参照して記入)

【職業経歴】 記入すること・記入上の注意

付問1 記入事項

- 「働き方リスト」の番号を、仕事経験 (⑤) 「働き方」に記入する。
- ▶ 働き始めた年度と終わりの年度のマスに数字を記入し、間を「—」で引く。
- ▶ 仕事経験 勤務先(④)の主な勤務先についてのみ該当する「働き方」の番号を記入する。
- ▶ 「パート・アルバイト、契約、嘱託・臨時」は、週当たりの労働時間によって番号が異なる(5 または 6)ので注意する。
- ▶ 同一年度に複数回の従業上の地位の変化があった場合は、3ヶ月のマス目を利用して記入する。

付問2 記入事項

同じ会社で働いている途中で「働き方」が変わった場合は、変更した時期と終了した時期のマスに「働き方」リストの番号を記入し、間を「—」で引く。

同一年度に複数の主たる勤務先があっても、すべて同じ番号のものであれば、従業上の地位の番号の記入は一つでよい。(例:労働時間の短いバイトを転々としている場合など)。

付問3 記入事項

- 職業リストの該当する番号を仕事経験 (⑥) 「職業」のマスに記入する。
- ▶ 働き始めた年度と終わりの年度のマスに、該当の数字を記入し、その「職業」を続けた期間に「—」を引く。

付問4 記入事項

同じ会社で働いている途中で職業の内容が変わった場合は、同様に、その「職業」の番号を開始時、および終了時のマスに記入し、間の期間に「—」を引く。

同一年度に複数の主な「職業」の変化を経験した場合には、3ヶ月のマスを利用して記入する。

	西暦 昭和・平成	年度 年度	1988				1989				1990				1991			
			昭和 63				平成 元				平成 2				平成 3			
			4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10	1
		月	6	9	12	3	6	9	12	3	6	9	12	3	6	9	12	3
④	勤務先	主な勤務先の変化(通し番号を記入)																
		合計[ ]社経験	— 1				2 —				—				— 2			
		同時に2つ以上の勤務先に勤めていた場合、副業はこちらの欄に記入																
⑤	働き方	主な勤務先での働き方の番号を記入(下のリストから選択。)	— 4 5				7 —				7 4 —				— 4			
⑥	職業	職業の番号を記入(下のリストから選択・同時に複数ある場合は主なもの1つ。わからない場合は「99」を記入)	— 3															
			5 —															
⑦	無職	無職の期間があったときに○を記入	○ ○ ○															



【職業経歴】

問10. 3社以上の勤務

a. (問9で聞いた会社に今も勤めている場合) **今、お伺いした会社に、現在もお勤めになっていられますね。**

- 1 働いている → (右頁を参考に勤務先数を記入して、20ページ問11へ)
- 2 問9の会社はやめた(問9の会社の勤務、働き方、職業の期間を変更してbへ)

b. その会社(勤め先)を辞めたあと、ほかの会社(仕事)にお勤めになったことはありますか。自営業主、家族従業者、自由業、内職なども含めてお答えください。派遣社員で働いた方は、派遣元ではなく、派遣先でお答え願います。雇用されている人の「勤務先」は、雇い主である企業、工場、商店、官公庁、公社などの他団体等のことであり、狭い意味での職場ではありません。よって、社員の転勤や教員の同一教育委員会内での異動は、勤め先が替わったことには含めません。ただし出向や転籍はほかの会社に替わったことに含めます。

- 1 ほかの会社で働いた → (12ページ問8付問1に戻り、次の会社について聞く)
- 2 ほかの会社で働いたことがない

付問1

**その会社(勤め先)を辞めてからは、ずっとお仕事をなさった経験はないのですね。**

(勤務先の合計数を確認して)

**これまでに勤めになったことのある会社(勤務先)は、全部で〇〇社ですね。**

**(右頁を参考に無職期間、勤務先数を記入して、20ページ問11へ)**

## 【職業経歴】 記入すること・記入上の注意

## 問 10. 記入事項

仕事経歴 無職 (⑦) の該当する期間のマスに「○」を記入する。

▶ 無職期間が長期にわたる場合は、開始と終了のマスに○を記入し、間を「——」で引いてもよい。

●仕事経歴 勤務先 (④) の「合計 [    ] 社経歴」のところに合計数を記入する。

④	勤務先	主な勤務先の変化(通し番号を記入)
		合計[    3    ]社経歴
-----		
同時に2つ以上の勤務先に勤めていた場合、副業はこちらの欄に記入		

※現在にいたるまで、すべての期間についての職業経歴（無職期間を含む）を確認する。

▶ 働いていた期間については、仕事経歴 勤務先 (④)、働き方 (⑤)、職業 (⑥) を記入

▶ 働いていなかった期間については、仕事経歴⑦無職を記入する。

▶ 勤務先の合計数も忘れずに記入すること。

※空白の期間がないかをよく確認すること※

【能力開発】

次に仕事に役立つ学習や勉強についておたずねします。

問 11. 教育訓練

対象者に回答してもらう前に、以下の教育訓練の定義を、丁寧の説明する。

- \* ここでいう教育訓練とは、具体的には会社(勤め先)に言われて受けた集合研修やセミナー、講習会などです。つまり仕事と関係する教育トレーニングのことで、会社(勤め先)に受講するように指示されて、ふだんの仕事から一時的に離れて受講したものを指します。
- \* 1年間に半日以上かけて受講した年度だけお答えください。
- \* ただし、ここでは日常の業務を行いながら、上司や先輩からの指導は除いてください。

まず、これまでに、会社の指示で年に半日以上教育訓練を受けたことがありますか。受けた年度を教えてください。

- 1 ある(〇〇年△月から〇〇年△月) (右頁を参考に教育訓練の時期を記入して、問 12 へ)
- 2 教育訓練は受けたことがない → (問 12 へ)

問 12. 自己啓発

それでは、次に、自分から進んでおこなった仕事に関する勉強のことについておうかがいします。就業時間外に、勤め先の指示ではなく、ご自分の意思で継続して仕事に関係したり、仕事に役立つようなことを勉強すること自己啓発といいます。

対象者に回答してもらう前に、以下の自己啓発の定義を、丁寧の説明する。

- \* 自己啓発には、働いていなかったときに、仕事に役立てようとしておこなった勉強も含まれます。また、継続的におこなったものだけお答えいただきたいのですが、目安として、1年間に合計20時間以上おこなったものだけをお答え下さい。たとえば、5ヶ月の間、毎週1時間以上英会話学校に通学した場合、週に1回30分のラジオ講座を聴いて勉強するのを1年間続けた場合、1年間に月に1回ペースで、2時間程度のセミナーに参加したという程度のものです。(面接調査記入用紙の右下に例示があるので、示すこと。)
- こうした勉強としては、仕事関係の本の購読、ラジオやテレビ講座の視聴、専門学校や社会人大学院への通学、自主的に勉強会やセミナーに参加することなどをお考えください。

このような自己啓発をしたことがありますか。したことがあるときは、その年度(年齢)を教えてください。

- 1 ある(〇〇年△月から〇〇年△月) (右頁を参考に自己啓発の時期を記入して、22 ページ問 13 へ)
- 2 教育訓練は受けたことがない → (22 ページ問 13 へ)



【ライフイベント】

＊ 最後あなたご自身のことについておうかがいします。

問13. 結婚について

現在、ご結婚はされていますか。

- 1 している → (付問1へ)
- 2 していない → (付問3へ)

付問1

ご結婚なさったのはいつ(何年、何歳のとき)ですか。ご結婚なさっていた期間を教えてください

- 1 ○○年△月(右頁を参考に結婚期間を記入して付問2へ)

付問2

今のご結婚の前に結婚経験がございますか。

- 1 ない → (問14へ)
- 2 ある → (付問4へ)

付問3 (していない場合は、)

ご結婚されていたことはありますか。

- 1 したことはない → (問14へ)
- 2 したことがある → (付問4へ)

付問4

ご結婚なさったのはいつ(何年、何歳のとき)ですか。ご結婚なさっていた期間を教えてください

- 1 ○○年△月(右頁を参考に結婚期間を記入して問14へ)

問14. 子供について

お子さんはいらっしゃいますか。(いる場合) お子さんは何人いらっしゃいますか。

- 1 ○人いる → (付問へ)
- 2 いない → (聞き取り調査終了です)

付問

それぞれのお子さんが生まれたのは、何年(あなたが何歳のとき)ですか。その子供さんの育児にあたって、あなたご自身は育児休暇を取りましたか。

○○年(右頁を参考に子供の生年(育児休暇の有無)、子供人数を記入)

- 3. 聞き取り調査終了

これで終わりです。調査にご協力いただきどうもありがとうございました。

【ライフイベント】 記入すること・記入上の注意

問 13. 記入事項

結婚 (⑩) の欄の結婚した年度 (年齢) に○を記入する。

結婚していた期間に「—」を引く。

問 14. 記入事項

子どもの数をライフイベント 子ども (⑪) の合計 [ ] 人に記入する。

子どもがいない場合は「0」人と記入する。

- それぞれの子どもの生まれた年度のマスに「○」を記入する。
- その子供の育児で対象者本人が育児休暇をとったときは日数に関係なく◎ (二重丸) を記入する。配偶者が育児休暇を取っていても対象者本人が取得していなければ◎でなく○を付ける。

回答例：1985年に結婚し87年に離婚。1988年に再婚して現在に至る。89年に第一子、1992年に第二子が生まれた。現在までのところ子どもの数は2人、第二子が生まれたときは育児休業を取得した。

西暦		1985	1986	1987	1988	1989	1990	1991	1992
昭和・平成		昭和 60	昭和 61	昭和 62	昭和 63	平成 元	平成 2	平成 3	平成 4
年度		4 7 10 1	4 7 10 1	4 7 10 1	4 7 10 1	4 7 10 1	4 7 10 1	4 7 10 1	4 7 10 1
月		6 9 12 3	6 9 12 3	6 9 12 3	6 9 12 3	6 9 12 3	6 9 12 3	6 9 12 3	6 9 12 3
⑩	結婚 結婚した年度(もしもしている期間に—を)	○			○				
⑪	合計 [ 2 ] 子ども 子どもが生まれた年度に○(育児にあたってあなたが自身が育児休暇を取った場合は◎)を記入する。					○			◎

- 記入用紙の右上の整理番号を忘れずに記入する。
- 記入用紙2枚目 (1993年～現在) の右上の欄に聞き取り調査の時期 (留置調査の前後のどちらか) に○を付ける。

---

JILPT 調査シリーズ No.63

働くことと学ぶことについての調査

発行年月日 2009年6月25日

編集・発行 独立行政法人 労働政策研究・研修機構

〒177-8502 東京都練馬区上石神井 4-8-23

研究調整部研究調整課 TEL:03-5991-5104

印刷・製本 有限会社 太平印刷

---

©2009 JILPT

\* 調査シリーズ全文はホームページで提供しております。(URL:<http://www.jil.go.jp/>)